

学校コード F140110110592

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科等連係課程実施基本組織の設置

注1

事前相談

注2

九州大学大学院 マス・フォア・イノベーション連係学府（博士後期課程）

【事前相談】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人九州大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 理学部等事務部教務課

職名・氏名 シュニン ヤヤマ コウスケ
主任・屋山 公佑

電話番号 092-802-4355

（夜間） 092-802-4355

e-mail gpmioffice@jimu.kyushu-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

マス・フォア・イノベーション関係学府（博士後期課程）

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	44
7. その他全般的事項	45

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 九州大学

(2) 大学名

九州大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒819-0395
福岡県福岡市西区元岡744

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(イシバシ タツロウ) 石橋 達朗 (令和2年10月)		
学府長	(ツジイ マサト) 辻井 正人 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
マス・フォア・イノベーション連携学部 博士後期課程 博士（数理学）、博士（機能数理学） 博士（情報科学）博士（理学） 博士（工学）博士（学術） 博士（経済学）	理学関係 工学関係 経済学関係	3 年	14 人	0 人	42 人	新規入学者を募集集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考	
	春季入学	その他の学期												
A 入学定員	() []	6人 -	1.0倍	-	本学府は令和2年度採択卓越大学院プログラムの実施学府として、設置報告しており、令和4年度の定員は、当該プログラムの計画に基づき、6人となる。									
志願者数	() []	11 3												
受験者数	() []	10 3												
合格者数	() []	7 2												
B 入学者数	() []	6 1												
入学定員超過率 B/A											1.0			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期									
1年次	[] ()	6 [1]	- []								
2年次	/		[] ()	4 [2]	- []						
3年次			/		[] ()	[] ()					
4年次	/				[] ()	[] ()					
計			[] ()	10 [3]	[] ()						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	10人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合計		0人		人	人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{10} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<マス・フォア・イノベーション連係学府（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
インターンシップ科目	国際共創力強化インターンシップ	1~2通		4		1							
	異分野共創力強化インターンシップ	1~2通		4		1							
	産学共創力強化インターンシップ	1~2通		4		1							
	数学創発モデリング	2通	2			23	15	1	4		17		
	小計(4科目)	-	2	12	0	26	15	1	4	0	17		
プレゼンテーション科目	卓越論報	2				1							
	小計(1科目)	-	2	0	0	1	0	0	0	0	0		
講究科目	卓越講究	1~3通	8			23	14	1			89		
	小計(1科目)	-	8	0	0	23	14	1	0	0	89		
合計(6科目)			-	12	12	0	23	15	1	4	0	105	
卒業要件及び履修方法													
<修了要件> 博士後期課程に3年以上在学し、以下の16単位以上を修得し、かつ博士論文審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、総長が特に優れた業績を上げた者と認められた者にあつては、博士後期課程に2年以上在学すれば足りるものとする。 1. インターンシップ科目 6単位以上(「数学創発モデリング」の2単位を含む) 2. プレゼンテーション科目 2単位 3. 講究科目 8単位													

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
インターンシップ科目	国際共創力強化インターンシップ	1~2通		4		1							
	異分野共創力強化インターンシップ	1~2通		4		1							
	産学共創力強化インターンシップ	1~2通		4		1							
	数学創発モデリング	2通	2			26	15	1	4		17		
	小計(4科目)	-	2	12	0	26	15	1	4	0	17		
プレゼンテーション科目	卓越論報	2				1							
	小計(1科目)	-	2	0	0	1	0	0	0	0	0		
講究科目	卓越講究	1~3通	8			26	15	1	0	0	111		
	小計(1科目)	-	8	0	0	26	15	1	0	0	111		
合計(6科目)			-	12	12	0	26	15	1	4	0	127	
卒業要件及び履修方法													
<修了要件> 博士後期課程に3年以上在学し、以下の16単位以上を修得し、かつ博士論文審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、総長が特に優れた業績を上げた者と認められた者にあつては、博士後期課程に2年以上在学すれば足りるものとする。 1. インターンシップ科目 6単位以上(「数学創発モデリング」の2単位を含む) 2. プレゼンテーション科目 2単位 3. 講究科目 8単位													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・「数学創発モデリング」を担当する教員の交替等により、「教授26」に変更。
- ・「卓越講究」を担当する教員の交替等により、「教授26」「准教授15」「兼任111」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	3 科目	0 科目	6 科目	3 科目 [0]	3 科目 [0]	0 科目 [0]	6 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{6} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体					
	校舎敷地	2,254,846㎡ 2,254,620㎡	㎡	㎡	2,254,846㎡ 2,254,620㎡						
	運動場用地	196,368㎡	㎡	㎡	196,368㎡						
	小 計	2,451,214㎡ 2,450,988㎡	㎡	㎡	2,451,214㎡ 2,450,988㎡						
	そ の 他	72,886,017㎡ 72,902,583㎡	㎡	㎡	72,886,017㎡ 72,902,583㎡		取壊し及び売却による変更(4)				
	合 計	75,337,231㎡ 75,353,571㎡	㎡	㎡	75,337,231㎡ 75,353,571㎡						
(2) 校舎	専 用	654,618㎡ 657,243㎡	㎡	㎡	654,618㎡ 657,243㎡	大学全体					
	(657,243㎡)	(㎡)	(㎡)	(657,243㎡)	改修及び区分見直し等による変更(4)						
(3) 教室等	講義室	347室 346室	演習室	362室 352室	実験実習室	115室 114室	情報処理学習施設	15室 14室	語学学習施設	4室 3室	大学全体 用途変更及び改修による修正(4)
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		マス・フォア・イノベーション連携学府			45 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	学部単位での特定不能なため、大学全体の数 除却及び新規購入による修正(4)			
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種								〔うち外国書〕
	4,198,705 [1,805,858] 4,202,696 [-1,812,778]	76,869 [34,083] 76,859 [-34,117]	52,670 [52,653] 51,597 [-51,580]	8,540 9,784	81 97	7,434,882					
	(4,198,705 [1,805,858])	(76,869 [34,083])	(52,670 [52,653])	(8,540)	(81)	(7,434,882)					
計	4,198,705 [1,805,858] 4,202,696 [-1,812,778]	76,869 [34,083] 76,859 [-34,117]	52,670 [52,653] 51,597 [-51,580]	8,540 9,784	81 97	7,434,882					
		(4,198,705 [1,805,858])	(76,869 [34,083])	(52,670 [52,653])	(8,540)	(81)	(7,434,882)				
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	46,365㎡		3,121 席		5,363,972 冊						
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
	12,019㎡		野 球 場 1 面 4 0 0 ㎡ ト ラ ッ ク 1 面								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度				
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円			
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		千円	千円	千円	千円	千円	千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要										

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	九州大学						学生募集停止学科数	11	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
共創学部					学士(学術)			—	平成30年度	福岡県福岡市	
共創学科	4	105		420		1.02	0.95			西区元岡744	
文学部					学士(文学)					福岡県福岡市	
人文学科	4	151		604		1.04	1.07	—	平成12年度	西区元岡744	
教育学部	4	46		184	学士(教育学)	1.08	1.08	—	昭和24年度	福岡県福岡市	
										西区元岡744	
法学部	4	189		756	学士(法学)	1.04	1.05	—	昭和24年度	福岡県福岡市	
										西区元岡744	
経済学部			3年次		学士(経済学)					福岡県福岡市	
経済・経営学科	4	141	10	584		1.04	1.05	—	平成12年度	西区元岡744	
経済工学科	4	85	10	360		1.06	1.03	—	昭和52年度		
理学部					学士(理学)					福岡県福岡市	
物理学科	4	55		220		1.05	1.03	—	昭和24年度	西区元岡744	
化学科	4	62		248		1.04	1.03	—	昭和24年度		
地球惑星科学科	4	45		180		1.10	1.08	—	平成2年度		
数学科	4	50	5	210		1.08	1.10	—	昭和24年度		
生物学科	4	46		184		1.05	1.04	—	昭和24年度		
医学部					学士(医学)					福岡県福岡市東区	
医学科	6	110		663	学士(生命医科学)	1.00	1.00	令和2年度	昭和24年度	馬出3丁目1番1号	入学定員変更(5)令和3年度まで
					学士(保健学)			令和4年度			入学定員変更(5)令和4年度まで
生命科学科	4	12		48	学士(看護学)	1.10	1.00	—	平成19年度		
保健学科	4	134		536		1.01	1.02	—	平成14年度		
歯学部					学士(歯学)					福岡県福岡市東区	
歯学科	6	53		318		0.99	1.00	—	昭和42年度	馬出3丁目1番1号	
薬学部					学士(創薬科学)					福岡県福岡市東区	
創薬科学科	4	49		196	学士(薬学)	1.05	1.04	—	平成18年度	馬出3丁目1番1号	
臨床薬学科	6	30		180		1.01	1.00	—	平成18年度		
工学部					学士(工学)	1.03	1.02			福岡県福岡市	
電気情報工学科	4	153		306				令和3年度	令和3年度	西区元岡744	
材料工学科	4	53		106				令和3年度	令和3年度		
応用化学科	4	72		144				令和3年度	令和3年度		

化学工学科	4	38	76			令和3年度	令和3年度		
融合基礎工学科	4	57	114			令和3年度	令和3年度		
機械工学科	4	135	270			令和3年度	令和3年度		
航空宇宙工学科	4	29	58			令和3年度	令和3年度		
量子物理工学科	4	38	76			令和3年度	令和3年度		
船舶海洋工学科	4	34	68			令和3年度	令和3年度		
地球資源システム工学科	4	34	68			令和3年度	令和3年度		
土木工学科	4	77	154			令和3年度	令和3年度		
建築学科	4	58	116			令和3年度	令和3年度		
建築学科	4	—	—	—	—	—	昭和29年度		令和3年より学生募集停止
電気情報工学科	4	—	—	—	—	—	平成8年度		令和3年より学生募集停止
物質科学工学科	4	—	—	—	—	—	平成9年度		令和3年より学生募集停止
地球環境工学科	4	—	—	—	—	—	平成10年度		令和3年より学生募集停止
エネルギー科学科	4	—	—	—	—	—	平成10年度		令和3年より学生募集停止
機械航空工学科	4	—	—	—	—	—	平成11年度		令和3年より学生募集停止
芸術工学科								福岡県福岡市南区	
芸術工学科	4	187	561	1.02	1.03	令和2年度	令和2年度	塩原4丁目9番1号	
環境設計学科	4	—	—	—	—	—	平成15年度		令和2年より学生募集停止
工業設計学科	4	—	—	—	—	—	平成15年度		令和2年より学生募集停止
画像設計学科	4	—	—	—	—	—	平成15年度		令和2年より学生募集停止
音響設計学科	4	—	—	—	—	—	平成15年度		令和2年より学生募集停止
芸術情報設計学科	4	—	—	—	—	—	平成15年度		令和2年より学生募集停止
農学部								福岡県福岡市	
生物資源環境学科	4	226	904	1.04	1.00	—	平成10年度	西区元岡744	
大学全体		2554	8725						

大学の名称	九州大学大学院					学生募集停止学科数	36	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	6	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
人文科学府					修士(文学) 博士(文学)					福岡県福岡市
人文基礎専攻									平成12年度	西区元岡744
修士課程	2	16		32		0.52	0.37	—		
博士後期課程	3	7		21		0.75	0.42	—		
歴史空間論専攻									平成12年度	
修士課程	2	20		40		0.65	0.60	—		
博士後期課程	3	9		27		0.40	0.11	—		
言語・文学専攻									平成12年度	
修士課程	2	20		40		0.55	0.65	—		
博士後期課程	3	9		27		0.96	1.11	—		
地球社会統合科学府					修士(学術) 修士(理学) 博士(学術) 博士(理学)					福岡県福岡市
地球社会統合科学専攻									平成26年度	西区元岡744
修士課程	2	60		120		0.67	0.68	—		
博士後期課程	3	35		105		0.50	0.37	—		
人間環境学府					修士(人間環境学) 修士(文学) 修士(教育学) 修士(心理学) 修士(工学) 博士(人間環境学) 博士(文学) 博士(教育学) 博士(心理学) 博士(工学) 臨床心理 修士(専門職)					福岡県福岡市
都市共生デザイン専攻									平成12年度	西区元岡744
修士課程	2	20		40		1.07	1.10	—		
博士後期課程	3	5		15		0.66	1.00	—		
人間共生システム専攻									平成12年度	
修士課程	2	11		22		0.90	1.00	—		
博士後期課程	3	9		27		0.62	0.44	—		
行動システム専攻									平成12年度	
修士課程	2	17		34		1.08	1.00	—		
博士後期課程	3	10		30		1.00	1.20	—		
教育システム専攻									平成17年度	
修士課程	2	19		38		0.68	0.63	—		
博士後期課程	3	9		27		0.47	0.11	—		
空間システム専攻									平成12年度	
修士課程	2	28		56		1.44	1.50	—		
博士後期課程	3	7		21		0.66	1.28	—		
実践臨床心理学専攻									平成17年度	
専門職学位課程	2	30		60		1.03	1.06	—		
法学府					修士(法学) 博士(法学)					福岡県福岡市
法政理論専攻									平成22年度	西区元岡744
修士課程	2	72		134		0.46	0.15	—		
博士後期課程	3	17		51		0.21	0.05	—		
法務学府					法務博士(専門職)					福岡県福岡市
実務法学専攻									平成16年度	西区元岡744
専門職学位課程	3	45		135		0.72	0.57	—		

経済学府				修士(経済学)				福岡県福岡市	
経済工学専攻				博士(経済学)			平成12年度	西区元岡744	
修士課程	2	20	40	経営修士(専門職)	1.09	0.73	—		
		[1]	[2]						入学定員変更(1)
博士後期課程	3	10	30		0.40	0.00	—		
		[1]	[2]						入学定員変更(1)
経済システム専攻							平成15年度		
修士課程	2	27	54		0.94	0.92	—		
博士後期課程	3	14	42		0.45	0.50	—		
産業マネジメント専攻							平成15年度		
専門職学位課程	2	45	90		0.97	1.06	—		
理学府				修士(理学)				福岡県福岡市	
物理学専攻				博士(理学)			平成20年度	西区元岡744	
修士課程	2	41	82		1.07	1.00	—		
博士後期課程	3	14	42		0.61	1.00	—		
化学専攻							平成20年度		
修士課程	2	62	124		1.11	1.16	—		
博士後期課程	3	19	57		0.63	0.42	—		
地球惑星科学専攻							平成12年度		
修士課程	2	41	82		1.06	1.00	—		
博士後期課程	3	14	42		0.49	0.28	—		
数理学府				修士(数理学)				福岡県福岡市	
数理学専攻				修士(技術数理学)			平成12年度	西区元岡744	
修士課程	2	54	108	博士(数理学)	1.00	0.91	—		
		[8]	[16]	博士(機能数理学)					入学定員変更(8)
博士後期課程	3	20	60		1.01	1.54	—		
		[9]	[18]						入学定員変更(9)
システム生命科学府				修士(システム生命科学)				福岡県福岡市	
システム生命科学専攻				修士(理学)			平成15年度	西区元岡744	
博士課程	5	54	270	修士(工学)	1.35	1.33	—		
				修士(情報科学)					
				博士(システム生命科学)					
				博士(理学)					
				博士(工学)					
				博士(情報科学)					
医学系学府				修士(医学科学)				福岡県福岡市東区	
医学専攻				修士(看護学)			平成20年度	馬出3丁目1番1号	
博士課程	4	107	428	修士(保健学)	1.07	1.09	—		
				博士(医学)					
医科学専攻				博士(看護学)			平成15年度		
修士課程	2	20	40	博士(保健学)	0.62	0.75	—		
保健学専攻				医療経営・管理学修士(専門職)			平成19年度		
修士課程	2	27	54		1.19	1.14	—		

博士後期課程	3	10	30	0.60	0.70	—	平成21年度		
医療経営・管理学専攻							平成13年度		
専門職学位課程	2	20	40	0.90	0.90	—			
歯学府								福岡県福岡市東区	
歯学専攻							平成12年度	馬出3丁目1番1号	
博士課程	4	43	172	0.89	0.93	—			
薬学府								福岡県福岡市東区	
創薬科学専攻								馬出3丁目1番1号	
修士課程	2	55	110	0.84	0.74	—	平成22年度		
博士後期課程	3	12	36	1.46	1.66	—	平成24年度		
臨床薬学専攻									
博士課程	4	5	20	0.80	1.00	—	平成24年度		
工学府								福岡県福岡市	
材料工学専攻							令和3年度	令和3年度	西区元岡744
修士課程	2	43	86	1.06	1.04				
博士後期課程	3	10	20	0.80	0.20				
応用化学専攻							令和3年度	令和3年度	
修士課程	2	68	136	1.18	1.13				
博士後期課程	3	18	36	1.24	0.83				
化学工学専攻							令和3年度	令和3年度	
修士課程	2	30	60	1.18	1.20				
博士後期課程	3	8	16	0.62	0.50				
機械工学専攻							平成22年度		
修士課程	2	73	146	1.24	1.27	—			令和3年度より入学定員変更 (11)
博士後期課程	3	16	48	0.62	0.37	—			
水素エネルギーシステム専攻							平成22年度		
修士課程	2	35	70	1.05	1.11	—			令和3年度より入学定員変更 (5)
博士後期課程	3	9	27	0.70	0.22	—			
航空宇宙工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	30	60	1.18	1.16	—			
博士後期課程	3	10	32	0.43	0.30	—			令和3年度より入学定員変更 (Δ2)
量子物理学専攻							令和3年度		エネルギー量子工学専攻から名称変更
修士課程	2	30	60	0.91	1.03	—			令和3年度より入学定員変更 (2)
博士後期課程	3	10	20	0.43	0.30	—			
船舶海洋工学専攻							令和3年度		海洋システム工学専攻から名称変更
修士課程	2	25	50	1.10	1.08	—			令和3年度より入学定員変更 (4)
博士後期課程	3	8	16	0.62	0.75	—			
地球資源システム工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	20	40	1.22	1.35	—			
博士後期課程	3	8	24	1.20	0.25	—			
共同資源工学専攻							平成29年度		
修士課程	2	10	20	1.45	1.50	—			
土木工学専攻							令和3年度	令和3年度	

修士課程	2	52	104	1.30	1.30				
博士後期課程	3	16	32	1.21	0.75				
物質創造工学専攻								平成12年度	
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
物質プロセス工学専攻								平成12年度	
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
材料物性工学専攻								平成12年度	
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
化学システム工学専攻								平成12年度	
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
建設システム工学専攻								平成12年度	
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
都市環境システム工学専攻								平成12年度	
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
海洋システム工学専攻								平成12年度	船舶海洋工学専攻へ名称変更
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
エネルギー量子工学専攻								平成12年度	量子物理学工学専攻へ名称変更
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和3年より学生募集停止
芸術工学府									福岡県福岡市南区
芸術工学専攻							令和4年度	令和4年度	塩原4丁目9番1号
修士課程	2	120	120	1.22	1.22				
博士後期課程	3	30	30	0.46	0.46				
芸術工学専攻								平成15年度	
修士課程	2	—	—	—	—	—			令和4年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—			令和4年より学生募集停止
デザインストラテジー専攻									
修士課程	2	—	—	—	—	—		平成18年度	令和4年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—	—		平成20年度	令和4年より学生募集停止
システム情報科学府									福岡県福岡市
情報理工学専攻							令和3年度	令和3年度	西区元岡744
修士課程	2	105	210	0.99	0.96				
博士後期課程	3	29	58	0.90	0.88				
【2】	【4】	【3】	【6】						入学定員変更(2)
【3】	【6】								入学定員変更(3)
電気電子工学専攻							令和3年度	令和3年度	

修士課程	2	65	130	1.31	1.21				
<small>(マス・コア・インテグレーション課程の内の数とする(入学定員数))</small>		【1】	【2】						入学定員変更(1)
博士後期課程	3	16	32	0.67	0.60				入学定員変更(1)
<small>(マス・コア・インテグレーション課程の内の数とする(入学定員数))</small>		【1】	【2】						
情報学専攻						平成21年度			
修士課程	2	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
情報知能工学専攻						平成21年度			
修士課程	2	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
電気電子工学専攻						平成21年度			
修士課程	2	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
総合理工学府								福岡県春日市	
総合理工学専攻						令和3年度	令和3年度	春日公園6丁目1番地	
修士課程	2	172	344	1.25	1.16				
博士後期課程	3	62	124	0.84	0.61				
量子プロセス理工学専攻						平成12年度			
修士課程	2	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
物質理工学専攻						平成12年度			
修士課程	2	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
先端エネルギー理工学専攻						平成12年度			
修士課程	2	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
環境エネルギー工学専攻						平成12年度			
修士課程	2	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
大気海洋環境システム学専攻						平成12年度			
修士課程	2	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
博士後期課程	3	—	—	—	—				令和3年より学生募集停止
生物資源環境科学府								福岡県福岡市	
資源生物科学専攻						平成22年度		西区元岡744	
修士課程	2	66	132	0.99	0.90				
博士後期課程	3	26	78	0.58	0.46				
環境農学専攻						平成22年度			
修士課程	2	66	132	0.94	0.74				
博士後期課程	3	21	63	0.57	0.19				
農業資源経済学専攻						平成22年度			
修士課程	2	13	26	0.49	0.46				
博士後期課程	3	5	15	0.33	0.60				
生命機能科学専攻						平成22年度			

修士課程	2	99	198	1.02	0.94	—			
博士後期課程	3	25	75	0.50	0.28	—			
統合新領域学府									福岡県福岡市
ユーザー感性学専攻									西区元岡744
修士課程	2	30	60	0.68	0.63	—	平成21年度		
博士後期課程	3	4	12	0.16	0.00	—	平成23年度		
オートモーティブサイエンス専攻							平成21年度		
修士課程	2	21	42	0.68	0.71	—			
博士後期課程	3	7	21	0.66	0.71	—			
ライブラリーサイエンス専攻									
修士課程	2	10	20	0.30	0.30	—	平成23年度		
博士後期課程	3	3	9	0.44	0.66	—	平成25年度		
マシナリービジョン連携学部									
博士前期課程	2	12	24	0.91	0.91		令和4年度	令和4年度	福岡県福岡市
博士後期課程	3	14	28	0.42	0.42				西区元岡744
大学院全体	—	2733	6137	—	—	—	—	—	—

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<マス・フォア・イノベーション連係学府（博士後期課程）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】			【令和4年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	阿部 拓郎 (43) <令和4年4月> 博士(理学)	専	教授	阿部 拓郎 (43) <令和4年4月> 博士(理学)
		国際共創力強化インターンシップ 異分野共創力強化インターンシップ 産業共創力強化インターンシップ 数学創発モデリング 卓越講究			数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	石井 豊 (52) <令和4年4月> 博士(数理学)	専	教授	石井 豊 (52) <令和4年4月> 博士(数理学)
		数学創発モデリング 卓越講究			数学創発モデリング 卓越講究
専	教授 (学府長)	長田 博文 (64) <令和4年4月> 理学博士			
		数学創発モデリング 卓越講究			
専	教授	落合 啓之 (57) <令和4年4月> 博士(数理学)	専	教授	落合 啓之 (57) <令和4年4月> 博士(数理学)
		数学創発モデリング 卓越講究			数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	鍛冶 静雄 (41) <令和4年4月> 博士(理学)	専	教授	鍛冶 静雄 (41) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング 卓越講究			数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	梶原 健司 (57) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	梶原 健司 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究			数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	神山 直之 (41) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	神山 直之 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究			数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	河原 吉伸 (41) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	河原 吉伸 (42) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究			数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐伯 修 (59) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	白井 朋之 (53) <令和4年4月> 博士(数理学) 卓越論報 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	辻井 正人 (57) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	縫田 光司 (43) <令和4年4月> 博士(数理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	原 隆 (62) <令和4年4月> 理学博士 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	廣島 文生 (57) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	福本 康秀 (62) <令和4年4月> 理学博士 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	増田 弘毅 (45) <令和4年4月> 博士(数理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	溝口 佳寛 (61) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐伯 修 (59) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	白井 朋之 (53) <令和4年4月> 博士(数理学) 卓越論報 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授 (学府表)	辻井 正人 (57) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	縫田 光司 (43) <令和4年4月> 博士(数理学) 国際共創力強化インターンシップ 風分野共創力強化インターンシップ 産業共創力強化インターンシップ 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	原 隆 (62) <令和4年4月> 理学博士 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	廣島 文生 (57) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	福本 康秀 (62) <令和4年4月> 理学博士 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	増田 弘毅 (45) <令和4年4月> 博士(数理学) 数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	溝口 佳寛 (61) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	Gaina Daniel Mircea (42) ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	Nguyen Dinh Hoa (37) ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	斎藤 新悟 (40) ＜令和4年4月＞ 博士(数学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	櫻井 大督 (35) ＜令和4年4月＞ 博士(科学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	田上 大助 (50) ＜令和4年4月＞ 博士(数理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	Cesana Pierluigi (40) ＜令和4年4月＞ 博士(応用数学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	手老 篤史 (44) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	富安 亮子 (44) ＜令和4年4月＞ 博士(数理科学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	新居 俊作 (53) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	Gaina Daniel Mircea (42) ＜令和4年4月＞ 博士(情報科学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	Nguyen Dinh Hoa (37) ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	斎藤 新悟 (40) ＜令和4年4月＞ 博士(数学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	櫻井 大督 (35) ＜令和4年4月＞ 博士(科学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	田上 大助 (50) ＜令和4年4月＞ 博士(数理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	Cesana Pierluigi (41) ＜令和4年4月＞ 博士(応用数学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	手老 篤史 (44) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	富安 亮子 (44) ＜令和4年4月＞ 博士(数理科学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	新居 俊作 (53) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	廣瀬 慧 (37) <令和4年4月> 博士(機能数理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	脇 隼人 (42) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	助教	石塚 裕大 (34) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング
専	助教	浦本 武雄 (35) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング
専	助教	廣瀬 雅代 (36) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング
専	助教	森山 哲裕 (48) <令和4年4月> 博士(数理学)
		数学創発モデリング
専	教授	荒川 豊 (44) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	小野 謙二 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	竹内 純一 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	廣瀬 慧 (37) <令和4年4月> 博士(機能数理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	脇 隼人 (42) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	助教	石塚 裕大 (34) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング
専	助教	浦本 武雄 (35) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング
専	助教	廣瀬 雅代 (36) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング
専	助教	森山 哲裕 (48) <令和4年4月> 博士(数理学)
		数学創発モデリング
専	教授	荒川 豊 (44) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	小野 謙二 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	竹内 純一 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	廣川 真男 (60) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	来嶋 秀治 (44) <令和4年4月> 博士(情報工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	白谷 正治 (61) <令和4年4月> 工学博士
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	村田 純一 (63) <令和4年4月> 工学博士
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	山本 薫 (35) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング
専	教授	大西 俊郎 (51) <令和4年4月> 博士(学術)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	瀧本 太郎 (47) <令和4年4月> 博士(経済学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	北原 知就 (39) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	廣川 真男 (60) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	白谷 正治 (61) <令和4年4月> 工学博士
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	村田 純一 (63) <令和4年4月> 工学博士
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	木村 薫 (35) <令和4年4月> 博士(情報理工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	山本 薫 (35) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	大西 俊郎 (51) <令和4年4月> 博士(学術)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	教授	瀧本 太郎 (47) <令和4年4月> 博士(経済学)
		数学創発モデリング 卓越講究
専	准教授	北原 知就 (39) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	小室 理恵 (51) <令和4年4月> Ph.D.(応用数学)(アメリカ) 数学創発モデリング 卓越講究
専	講師	伊豆永 洋一 (35) <令和4年4月> 博士(工学) 数学創発モデリング 卓越講究
兼任	教授	有村 秀孝 (56) <令和4年4月> 博士(工学) 数学創発モデリング
兼任	教授	内田 誠一 (54) <令和4年4月> 博士(工学) 数学創発モデリング 卓越講究
兼任	教授	久保田 浩行 (48) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング
兼任	教授	佐竹(関) 暁子 (47) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング
兼任	教授	竹村 俊彦 (47) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング
兼任	教授	辻 健 (42) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング
兼任	教授	寺本 振透 (59) <令和4年4月> 法学士 数学創発モデリング

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	小室 理恵 (51) <令和4年4月> Ph.D.(応用数学)(アメリカ) 数学創発モデリング 卓越講究
専	講師	伊豆永 洋一 (35) <令和4年4月> 博士(工学) 数学創発モデリング 卓越講究
兼任	教授	有村 秀孝 (56) <令和4年4月> 博士(工学) 数学創発モデリング
兼任	教授	内田 誠一 (54) <令和4年4月> 博士(工学) 数学創発モデリング 卓越講究
兼任	教授	久保田 浩行 (48) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング
兼任	教授	佐竹(関) 暁子 (47) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング
兼任	教授	竹村 俊彦 (47) <令和4年4月> 博士(理学) 数学創発モデリング
兼任	教授	寺本 振透 (59) <令和4年4月> 法学士 数学創発モデリング

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼担	教授	中島 直樹 (59) <令和4年4月> 博士(医学)	兼担	教授	中島 直樹 (59) <令和4年4月> 博士(医学)
		数学創発モデリング			数学創発モデリング
兼担	准教授	伊藤 浩史 (42) <令和4年4月> 博士(理学)	兼担	准教授	伊藤 浩史 (42) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング			数学創発モデリング
兼担	准教授	宇田 新介 (46) <令和4年4月> 博士(理学)	兼担	准教授	宇田 新介 (46) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング			数学創発モデリング
兼担	准教授	岡本 剛 (46) <令和4年4月> 博士(工学)	兼担	准教授	岡本 剛 (46) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング			数学創発モデリング
兼担	准教授	岡安 崇史 (50) <令和4年4月> 博士(農学)	兼担	教授	岡安 崇史 (50) <令和4年4月> 博士(農学)
		数学創発モデリング			数学創発モデリング
兼担	准教授	Ta Viet Ton (38) <令和4年4月> 博士(工学)	兼担	准教授	Ta Viet Ton (38) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング			数学創発モデリング
兼担	准教授	成原 慧 (39) <令和4年4月> 修士(社会情報学)	兼担	准教授	成原 慧 (39) <令和4年4月> 修士(社会情報学)
		数学創発モデリング			数学創発モデリング
兼担	准教授	坂東(北野) 麻衣 (42) <令和4年4月> 博士(工学)	兼担	准教授	坂東(北野) 麻衣 (42) <令和4年4月> 博士(工学)
		数学創発モデリング			数学創発モデリング
			兼担	助教	池田 達紀 (36) <令和4年4月> 博士(工学)
					数学創発モデリング

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	丸山 修 (54) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング
兼任	助教	野下 浩司 (34) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング
兼任	教授	稲濱 謙 (49) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	岩瀬 則夫 (63) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	WENG LIN (57) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	勝田 篤 (64) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	金子 昌信 (61) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	小林 真一 (48) <令和4年4月> 博士(数理学)
		卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	丸山 修 (54) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング
兼任	助教	野下 浩司 (34) <令和4年4月> 博士(理学)
		数学創発モデリング
兼任	教授	稲濱 謙 (49) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	岩瀬 則夫 (63) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	WENG LIN (57) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	勝田 篤 (64) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	金子 昌信 (61) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	岸本 大祐 (47) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	小林 真一 (48) <令和4年4月> 博士(数理学)
		卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	角 俊雄 (59) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	瀬片 純市 (44) <令和4年4月> 博士(数理学)
		卓越講究
兼任	教授	谷口 説男 (64) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	塚本 真輝 (39) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	藤澤 克樹 (51) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	増田 俊彦 (50) <令和4年4月> 博士(数理科学)
		卓越講究
兼任	教授	松井 卓 (63) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	森下 昌紀 (60) <令和4年4月> Ph.D(アメリカ)
		卓越講究
兼任	准教授	大津 幸男 (58) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	角 俊雄 (59) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	瀬片 純市 (44) <令和4年4月> 博士(数理学)
		卓越講究
兼任	教授	谷口 説男 (64) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	藤澤 克樹 (51) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	増田 俊彦 (50) <令和4年4月> 博士(数理科学)
		卓越講究
兼任	教授	松井 卓 (63) <令和4年4月> 理学博士
		卓越講究
兼任	教授	森下 昌紀 (60) <令和4年4月> Ph.D(アメリカ)
		卓越講究
兼任	准教授	大津 幸男 (58) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	神本 丈 (54) ＜令和4年4月＞ 博士(数理学)
		卓越講究
兼担	准教授	今野 拓也 (54) ＜令和4年4月＞ 数理学博士
		卓越講究
兼担	准教授	権 寧魯 (52) ＜令和4年4月＞ 博士(数理学)
		卓越講究
兼担	准教授	笹平 裕史 (42) ＜令和4年4月＞ 博士(数理学)
		卓越講究
兼担	准教授	佐藤 康彦 (39) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		卓越講究
兼担	准教授	高田 了 (37) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		卓越講究
兼担	准教授	竹田 雄一郎 (55) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		卓越講究
兼担	准教授	佃 康司 (34) ＜令和4年4月＞ 博士(統計科学)
		卓越講究
兼担	准教授	蕨谷 充伸 (35) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		卓越講究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	神本 丈 (54) ＜令和4年4月＞ 博士(数理学)
		卓越講究
兼担	准教授	今野 拓也 (54) ＜令和4年4月＞ 数理学博士
		卓越講究
兼担	准教授	権 寧魯 (52) ＜令和4年4月＞ 博士(数理学)
		卓越講究
兼担	准教授	笹平 裕史 (42) ＜令和4年4月＞ 博士(数理学)
		卓越講究
兼担	准教授	佐藤 康彦 (39) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		卓越講究
兼担	准教授	高田 了 (37) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		卓越講究
兼担	准教授	竹田 雄一郎 (55) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		卓越講究
兼担	准教授	佃 康司 (34) ＜令和4年4月＞ 博士(統計科学)
		卓越講究
兼担	准教授	蕨谷 充伸 (35) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		卓越講究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼担	准教授	樋上 和弘 (53) <令和4年4月> 博士(理学)	兼担	准教授	樋上 和弘 (53) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究			卓越講究
兼担	准教授	BREZINA JAN (38) <令和4年4月> 博士(数理学)	兼担	准教授	BREZINA JAN (38) <令和4年4月> 博士(数理学)
		卓越講究			卓越講究
兼担	准教授	松江 要 (38) <令和4年4月> 博士(理学)	兼担	准教授	松江 要 (38) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究			卓越講究
兼担	准教授	吉田 寛 (47) <令和4年4月> 博士(理学)	専	准教授	吉田 寛 (47) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究			数学創発モデリング 卓越講究
兼担	教授	井上 弘士 (50) <令和4年4月> 博士(工学)	兼担	教授	井上 弘士 (50) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究			卓越講究
兼担	教授	鵜林 尚靖 (62) <令和4年4月> 博士(学術)	兼担	教授	鵜林 尚靖 (62) <令和4年4月> 博士(学術)
		卓越講究			卓越講究
兼担	教授	岡田 義広 (57) <令和4年4月> 博士(工学)	兼担	教授	岡田 義広 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究			卓越講究
兼担	教授	岡村 耕二 (56) <令和4年4月> 博士(工学)	兼担	教授	岡村 耕二 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究			卓越講究
兼担	教授	川崎 洋 (51) <令和4年4月> 博士(工学)	兼担	教授	川崎 洋 (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究			卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	倉爪 亮 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	小出 洋 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	木實 新一 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	櫻井 幸一 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	志堂寺 和則 (60) <令和4年4月> 博士(文学)
		卓越講究
兼任	教授	島田 敬士 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	鈴木 英之進 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	瀧本 英二 (58) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	竹田 正幸 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	倉爪 亮 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	小出 洋 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	木實 新一 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	櫻井 幸一 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	志堂寺 和則 (60) <令和4年4月> 博士(文学)
		卓越講究
兼任	教授	島田 敬士 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	鈴木 英之進 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	瀧本 英二 (58) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	竹田 正幸 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	ZHAO JIANJUN (57) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		卓越講究
兼担	教授	富浦 洋一 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼担	教授	森 周司 (61) <令和4年4月> Ph.D in Psychology(加)
		卓越講究
兼担	教授	横尾 真 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼担	准教授	AHMED ASHIR (51) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		卓越講究
兼担	准教授	天野 浩文 (58) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼担	准教授	池田 大輔 (50) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	ZHAO JIANJUN (57) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		卓越講究
兼担	教授	富浦 洋一 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼担	教授	森 周司 (61) <令和4年4月> Ph.D in Psychology(加)
		卓越講究
兼担	教授	横尾 真 (60) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼担	教授	美添 一樹 (47) <令和4年4月> 博士(情報理工学)
		卓越講究
兼担	准教授	AHMED ASHIR (51) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		卓越講究
兼担	准教授	池田 大輔 (50) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼担	准教授	伊東 栄典 (52) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		卓越講究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼担	准教授	稲永 俊介 (44) <令和4年4月> 博士(理学)	兼担	准教授	稲永 俊介 (44) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究			卓越講究
			兼担	准教授	IWANA BRIAN KENJI (38) <令和4年4月> 博士(学術)
					卓越講究
			兼担	准教授	VASCONCELLOS VARGAS DANILO (36) <令和4年4月> 博士(学術)
					卓越講究
			兼担	准教授	大久保 文哉 (35) <令和4年4月> 博士(理学)
					卓越講究
			兼担	准教授	岡田 昌也 (45) <令和4年4月> 博士(情報学)
					卓越講究
			兼担	准教授	小野 貴継 (40) <令和4年4月> 博士(工学)
					卓越講究
兼担	准教授	亀井 靖高 (39) <令和4年4月> 博士(工学)	兼担	准教授	亀井 靖高 (39) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究			卓越講究
兼担	准教授	西郷 浩人 (44) <令和4年4月> 博士(情報学)	兼担	准教授	西郷 浩人 (44) <令和4年4月> 博士(情報学)
		卓越講究			卓越講究
			兼担	准教授	鈴木 孝彦 (64) <令和4年4月> 博士(工学)
					卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	准教授	谷本 輝夫 (34) <令和4年4月> 博士(工学) 卓越講究
			兼任	准教授	東藤 大樹 (35) <令和4年4月> 博士(情報科学) 卓越講究
			兼任	准教授	南里 豪志 (52) <令和4年4月> 博士(情報科学) 卓越講究
			兼任	准教授	畑笠 晃平 (46) <令和4年4月> 博士(理学) 卓越講究
			兼任	准教授	土中 哲秀 (30) <令和4年4月> 博士(経済学) 卓越講究
兼任	准教授	備瀬 竜馬 (44) <令和4年4月> 博士(学際情報学) 卓越講究	兼任	准教授	備瀬 竜馬 (44) <令和4年4月> 博士(学際情報学) 卓越講究
			兼任	准教授	福嶋 政期 (36) <令和4年4月> 博士(工学) 卓越講究
兼任	准教授	松永 裕介 (59) <令和4年4月> 博士(工学) 卓越講究	兼任	准教授	松永 裕介 (59) <令和4年4月> 博士(工学) 卓越講究
兼任	准教授	峯 恒憲 (58) <令和4年4月> 博士(工学) 卓越講究	兼任	准教授	峯 恒憲 (58) <令和4年4月> 博士(工学) 卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	牟田 修 (48) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	池上 浩 (52) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	板垣(福田) 奈穂 (46) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	岩熊 成卓 (61) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	蛸原 義雄 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	興 雄司 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	加藤 和利 (61) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	牟田 修 (48) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	准教授	山内(奈嶋) 由紀子 (40) <令和4年4月> 博士(情報科学)
		卓越講究
兼任	准教授	渡部 善隆 (55) <令和4年4月> 博士(数理学)
		卓越講究
兼任	教授	池上 浩 (52) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	板垣(福田) 奈穂 (46) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	岩熊 成卓 (61) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	蛸原 義雄 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	興 雄司 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	加藤 和利 (61) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	金谷 晴一 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	川邊 武俊 (64) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	木須 隆暢 (59) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	木村 俊二 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	古閑 一憲 (51) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	庄山 正仁 (63) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	末廣 純也 (61) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	林 健司 (61) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	POKHAREL RAMESH KUMAR (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	金谷 晴一 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	川邊 武俊 (64) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	木須 隆暢 (59) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	木村 俊二 (55) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	古閑 一憲 (51) <令和4年4月> 博士(理学)
		卓越講究
兼任	教授	庄山 正仁 (63) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	末廣 純也 (61) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	林 健司 (61) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	POKHAREL RAMESH KUMAR (51) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	中村 大輔 (42) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	准教授	矢嶋 超彬 (37) <令和4年4月> 博士(科学)
		卓越講究
兼任	教授	内田 交謹 (52) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼任	教授	浦川 邦夫 (44) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼任	教授	藤田 敏之 (53) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	古川 哲也 (62) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	松本 浩一 (50) <令和4年4月> 博士(数理学)
		卓越講究
兼任	教授	三浦 功 (64) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼任	教授	宮崎 毅 (47) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	中村 大輔 (42) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	准教授	矢嶋 超彬 (37) <令和4年4月> 博士(科学)
		卓越講究
兼任	教授	内田 交謹 (52) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
専任	教授	浦川 邦夫 (44) <令和4年4月> 博士(経済学)
		数学創発モデリング 卓越講究
兼任	教授	藤田 敏之 (53) <令和4年4月> 博士(工学)
		卓越講究
兼任	教授	古川 哲也 (62) <令和4年4月> 工学博士
		卓越講究
兼任	教授	松本 浩一 (50) <令和4年4月> 博士(数理学)
		卓越講究
兼任	教授	三浦 功 (64) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼任	教授	宮崎 毅 (47) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	葉 聡明 (48) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	池下 研一郎 (46) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	堀 宣昭 (53) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	宮澤 健介 (41) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	三輪 宏太郎 (43) <令和4年4月> 博士(学術)
		卓越講究
兼担	准教授	村尾 徹士 (41) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	山崎 大輔 (33) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	講師	室賀(牧) 貴穂 (30) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	葉 聡明 (48) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	池下 研一郎 (46) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	菅 史彦 (41) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	堀 宣昭 (53) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	宮澤 健介 (41) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	三輪 宏太郎 (43) <令和4年4月> 博士(学術)
		卓越講究
兼担	准教授	村尾 徹士 (41) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	准教授	山崎 大輔 (34) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究
兼担	講師	室賀(牧) 貴穂 (30) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	室賀(牧) 貴穂 (30) <令和4年4月> 博士(経済学)	兼任	講師	室賀(牧) 貴穂 (30) <令和4年4月> 博士(経済学)
		卓越講究			卓越講究

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none">・長田教授（専任）が退職により辞退。・辻井教授（専任）がマス・フォア・イノベーション連携学府長に就任。・「国際共創力強化インターンシップ」「異分野共創力強化インターンシップ」「産学共創力強化インターンシップ」の担当が阿部教授（専任）から縫田教授（専任）に変更となった。・富安准教授（専任）の職名が教授に変更。・来嶋准教授（専任）が退職により辞退。・木村准教授が専任となり「数学創発モデリング」「卓越講究」を担当する。・辻教授（兼任）が退職により辞退。・岡安准教授（兼任）の職名が教授に変更。・池田助教が兼任となり「数学創発モデリング」を担当する。・岸本教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・塚本教授（兼任）が退職により辞退。・神本准教授（兼任）の職名が教授に変更。・高田准教授（兼任）が退職により辞退。・鳶谷教授について、職名が記載間違いのため修正。・BREZINA准教授について、年齢が記載間違いのため修正。・吉田准教授（兼任）の専任・兼任・兼任の区分が、専任に変更となり「数学創発モデリング」を担当する。・美添教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・天野准教授（兼任）が退職により辞退。・伊東准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・IWANA准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・VASCONCELLOS准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・大久保准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・岡田准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・小野准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・鈴木准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・谷本准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・東藤准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・南里准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・畑笠准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・土中准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・福岡准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・山内准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・渡部准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・宮崎教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・中野准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。・浦川教授（兼任）の専任・兼任・兼任の区分が、専任に変更となり「数学創発モデリング」を担当する。・菅准教授が兼任となり「卓越講究」を担当する。
--

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5	4	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
23	15	1	4	43	0	26	15	1	4	46	0
(26)	(15)	(1)	(4)	(46)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
39	4	0				42	4	0			
(42)	(4)	(16)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
26	15	1	4	46	0	26	15	1	4	46	0
[3]	[-]	[-]	[-]	[3]	[-]	[3]	[-]	[-]	[-]	[3]	[-]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
42	4	0				42	4	0			
[3]	[-]	[-]				[3]	[-]	[-]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{46}{43} = \boxed{106.97} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{46} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	長田 博文	R4.3	必修	数学創発モデリング	①	R4.3.31付け退職のため就任辞退（4）			
				必修	卓越講究	①				
2	准教授	来嶋 秀治	R4.3	必修	数学創発モデリング	①				
				必修	卓越講究	①				
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
2	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
2	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	4	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{43} = 4.65\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

— 人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>・ 学外転出のため教授1名及び准教授1名が授業担当から外れたが、准教授1名が新たに専任教員に就任するとともに、准教授(兼任)1名が新たに専任教員に就任し、いずれの科目においても他の専任教員を後任として担当配置することができているため、特に影響はない。なお、授業担当教員の変更、開講時期などについては、学生用ポータルサイトでの通知及び学生向けWebサイトに掲載の時間割等により、学生に周知する。</p>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和3年)	大学院における経済学の基本的な知識が修得できるよう、適切な履修指導等に努めること。	遵守事項 指導教員を中心とした履修指導により、経済理論Ⅰ、経済理論Ⅱ等の学術基盤の養成に特に重要な科目を修得させ、確実に経済学の基本的な知識を修得させる体制をとった。 さらに、学生の履修指導に、ヤングメンターとして学生と同世代の学術研究員も加わり、個々の学生の学修や研究の進捗状況を把握しながらきめ細やかな指導を行う体制を構築した。	履行済

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<マス・フォア・イノベーション連係学府（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>1) 全学的には、教育企画委員会において、FDの実施及び支援等について審議を行っている。</p> <p>2) マス・フォア・イノベーション連係学府においては、教授会、運営委員会、教務委員会を設置した。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>1) 教育企画委員会については、令和3年度は12回（書面回議含む）開催しており、各学部、学府を代表する委員を中心に、毎回40名弱の委員が参加している。</p> <p>2) 教授会については、4月19日に第1回目を開催し、19名が参加した。原則毎月1回開催予定。 運営委員会については、4月12日に第1回目を開催し、5名が参加した。原則毎月1回開催予定。 教務委員会については、6月に第1回目を開催予定。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>教育企画委員会、教授会、運営委員会、教務委員会の審議事項については、各委員会の内規を添付した。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン教育に関するワークショップ ・ M2B学習支援システム講習会 ・ コロナ禍における国際教育の実践と今後の展望 ・ 電子教材著作権講習会 ・ 電子教材開発者向け講習会 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Zoom、Teamsを使用したオンライン形式、または、対面とオンライン形式を併用したハイブリット形式 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン教育に関するワークショップ（5/19：32名） ・ M2B学習支援システム講習会（9/24：45名） ・ コロナ禍における国際教育の実践と今後の展望（10/26：132名） ・ 電子教材著作権講習会（12/10：64名） ・ 電子教材開発者向け講習会（12/10：46名） <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p>
--

学修支援システムを利用して授業を行う教員の増加や、新たな教育の質向上プログラムを実施するなど、様々な改善を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎年度、各学期の終了時に授業アンケートを実施する予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業アンケートの結果を集計し、教務委員会及び関係教員に送付する予定。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
設置の趣旨・目的に沿った教育体制の整備、各連携協力学府と連携した学生選抜により、令和4年4月の学府開設及びそれ以降の活動が順調に行われていると考えている。引き続き、組織や分野の垣根を越え、数学モデリング力を活かして各分野で共創し、イノベーションを創発する卓越した数学モデリング人材を育成するという目的の達成に向け、教育内容の充実を図る。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期
未定

b 公表方法
・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画
全学的な実施時期に合わせ評価を受けるべく、学内で検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

事前相談に係る附帯事項への対応について

ー 九州大学マス・フォア・イノベーション連係学府 ー

1. 附帯事項について

【遵守事項】

大学院における経済学の基本的な知識が修得できるよう、適切な履修指導等に努めること。

2. 附帯事項への対応について

本学府では、連係する数理学府、システム情報科学府、経済学府で培われてきた優れた専門的な教育・研究を基盤に、数学モデリングを通して、組織や分野の垣根を越えて共創し、イノベーションを創発することのできる卓越した数学モデリング人材の育成を目的としている。

学位の授与にあたっては、当該学位の分野に応じ、学術基盤たる基本的な知識の修得のため、各連係協力学府における専攻教育科目を組み入れた教育課程を編成し、数理学府、システム情報科学府、経済学府経済工学専攻における所要の専攻教育科目を修得させる。

「経済学」の学位の授与においては、経済学府経済工学専攻で開講する専攻教育科目を中心に12単位以上を修得することで、経済学に係る学術基盤を養成する。具体的には、指導教員を中心とした履修指導により、経済理論Ⅰ、経済理論Ⅱ等の学術基盤の養成に特に重要な科目を修得させる体制をとることで、確実に経済学の基本的な知識を修得させるようにする。

学生の履修指導にあたっては、指導教員が各学生に対し、体系的かつ効果的に学修できるよう指導を行うことを基本としつつ、これにヤングメンターとして学生と同世代の学術研究員も加わることで、個々の学生の学修や研究の進捗状況を把握しながらきめ細やかな指導を行う。

なお、事前相談時に提出した資料では説明が不足していたことから、「設置の趣旨等を記載した書類」において、上述した内容を追記する。

また、「設置の趣旨等を記載した書類」の添付資料「【資料1】入学から修了までのスケジュール表」、「【資料2】履修モデル」において、授与する学位の分野に応じた学術基盤の修得に必要な科目の履修指導時期、想定される履修科目を示す。

3. 添付書類

- ・設置の趣旨等を記載した書類
- ・【資料1】入学から修了までのスケジュール表
- ・【資料2】履修モデル

令和3年10月15日版

設置の趣旨等を記載した書類 (案)

九州大学大学院
マス・フォア・イノベーション関係学府

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
2. 学位プログラムの名称及び学位の名称	8
3. 教育課程の編成の考え方及び特色	11
4. 教育方法、履修指導、研究指導方法及び修了要件	20
5. 基礎となる学部との関係	27
6. 入学者選抜の概要	27
7. 教員組織の編成の考え方及び特色	28
8. 施設、設備等の整備計画	30
9. 管理運営	31
10. 自己点検・評価	33
11. 情報の公表	35
12. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	36

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 概要・目的

九州大学に、国際的に優れた数学力及び統計力を基盤として、組織や分野の垣根を越え、数学モデリング力を活かして各分野で共創し、イノベーションを創発する卓越した数学モデリング人材を育成することを目的とする学位プログラム「マス・フォア・イノベーション連係学府」を設置する。本学位プログラムでは、連係協力学府である大学院数理学府（数理学専攻）、大学院システム情報科学府（情報理工学専攻と電気電子工学専攻）と大学院経済学府（経済工学専攻）の連係・協力の下、①高く柔軟な「数学力」、②データハンドリングに必須の「統計力」、③複雑な課題の本質を見抜き、数学モデルを構築する「モデリング力」、④他分野の研究者と協働し創造する「共創力」、⑤これらの4つの力を統合してイノベーションを創出する「創発力」の5つの力「マス・ファイブ・フォース（MFF）」を備えた人材を育成する。

本学位プログラムが掲げる最も大きな目的は以下の2つである。

- 世界に誇れる博士課程一貫の文理横断型学位プログラムとして構築・発展させることで、本学のみならず我が国の大学院改革を推進・先導する。
- 我が国における産業数学の潜在力を引き出すとともに、他分野と共創できる数学モデリング人材の質・量の充実に資する学位プログラムとすることで、世界の社会や産業の発展・牽引に貢献する。

本学位プログラムは、令和2年度文部科学省『卓越大学院プログラム』事業に採択され、令和3年度から上記3学府が連係・協力してそれぞれの学府に開設した「マス・フォア・イノベーション卓越大学院コース」を、研究科等連係課程実施基本組織として1つの組織に発展・設置するものである。本学位プログラムの連係協力学府における教育・研究は、「数学モデルを用いて自然界や社会の様々な現象を解析して理解を深める」という点において本質的な共通項を持ち、1つの組織として一体化することで、より強固な教育体制を構築し、高いレベルでの異分野融合型教育を推進してゆく。

なお、『卓越大学院プログラム』事業に採択されたプログラムは全国で30あるが、研究科等連係課程を活用するものは他になく、本学位プログラムは、オンリーワンかつナンバーワンである本学の産業数学の教育研究を基盤に、国の財政支援と新たな制度である研究科等連係課程を組み合わせた、まさに我が国における最先端の学位プログラムである。

(2) 社会的背景・設置の必要性

深層学習を契機とした機械学習、AIの爆発的発展により、データサイエンス的方法論が、学術や技術からビジネスや生活のあり方まで激変させている。一方、データのみに基づくAI技術には限界があり、信頼できる精度や理論的基盤の不確実性など、未知の要素が多い。そうした中で、数学には、その汎用性と厳密性によって、AI技術の限界を克服し、ひいては分野の壁を越えた他分野との積極的な協働を通して、人類社会の未来を切り拓く役割が期待される。特に、現実にある諸問題の数学モデルを構築し、これらの問題の解決に資するモデリングは、データがないところでも威力を発揮し、文理を問わず現代社会の広範な領域において客観的に検証可能な方法論として重要な位置を占めており、それが社会に大きなインパクトを与えつつある。数学の活用の成否が今後の社会のあり方に直接影響するが、それを担う体系的な人材育成

システムは確立していない。そのことを表す、文部科学省・経済産業省「理数系人材の産業界での活躍に向けた意見交換会報告書」(2019. 3. 26)における産業界の委員の発言を以下に引用する。

『これからの数理的な人材には、もう一つ重要なことが必要…自らの数理的な力を使い、周りの人たちと「協創」する能力が必要です。この目的から出発し、周りとは協力して解決する発想は、これまでの数学や理論物理学で育成してきた人材とは異なります。この新しい「数理資本」をもった人材の育成に成功している国はありません。だからこそ、日本にチャンスがあります。今こそ、国をあげて、このような人材を育成する挑戦に投資すべき時です。』

このような人材が貢献しうる分野・その具体例として以下のようなものが挙げられる。

- **情報分野**：世界にイノベーションを起こしたGoogle検索の基幹技術「PageRank」では、ウェブページ同士のつながりの確率論やランダム行列理論を用いた数学モデリングと解析が根幹にある。
- **環境分野**：気候変動に伴う集中豪雨や熱波など極端現象の増加に伴い、人的・経済的被害の拡大が社会問題になっている。その解決には、従来型のシミュレーションだけでなく、数値モデルの高度化、データ同化などの発達で今まで以上に数学の力が必須となっている。ただし、地球科学研究者とその言語を理解しつつ数学的な言葉に翻訳し、エッセンスを数学モデリングとして構築・解析する力が重要である。
- **疫学・公衆衛生分野**：新型コロナウイルス等のパンデミックに対して即座に応答し、定量的な知見を行政にフィードバックし、流行のコントロールに貢献するために必須の、高度な数学モデリングデータ解析、シミュレーションなどの数学手法を自在に扱える人材を早急に育成する必要がある。
- **法律分野**：法律家業務の理解・協働、数学モデリングができる博士人材の輩出で、結論までの道筋の「見える化」、判決理解の深化が進み、社会を変えるインパクトを与えることができる。

以上の例から、数学が他分野と連携する際、共通に求められる必須能力は数学モデリング力と言える。つまり、高い数学的基盤能力を、数学モデリング力を通じて実際に活用できる人材＝「モデリング人材」が、他分野の一定の知識を習得してその分野の研究者と連携し、様々な分野に本質的な貢献をすることが求められている。しかし、そのような人材は限定的である。その理由は、数学は他分野連携に積極的に取り組んで来なかったこと、また、他分野は数学の力を評価・活用して来なかったことにある。

その克服のため、他分野の研究者との共創と、社会を変革するイノベーション創発の概念の導入が数学に求められる。我が国では、数理・データサイエンスにおいて、その動きは諸外国に比べて数歩遅れており、対応は急務である。また、広い範囲の数学で共創・創発のできるモデリング人材の組織的育成は世界的にも未開拓であり、本学位プログラムを設置し、世界的にも必要とされている人材育成を牽引することは、日本のみならず、国際的にも強いニーズに合致するものである。

なお、九州大学を初め、全国の多くの大学で数理データサイエンス教育が活発に行われており、様々な分野において、統計学などに基づくデータ解析ができる人材の育成も行われている。しかしながら、社会における様々な現象や状況、課題を数学的に定式化した上で、数学モデリングを用いて解析してゆくことができる人材は、そうしたデータ解析手法を教育するだけでは育成できない。ましてや、既存のデータがないところでも予測や解析を行うことが求められる現代社会においては、数理データサイエンス手法だけでは足りず、数学モデリング手法が必須となっている。本学位プログラムでは、そうした現代社会のニーズに数学モデリングを活用して立ち向かうことができる人材を育成するものである。

(3) 九州大学に設置する意義

九州大学は、平成23年度に策定した今後百年の行動計画の「基本理念」として「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた、最高水準の研究教育拠点となる」ことを標榜している。平成29年度には、この基本理念を実現するための取組の一つとして、特に大学院で行うべき教育改革の実行方針を「九州大学大学院教育改革指針」として策定した。この指針では、産業界をはじめとする社会のニーズに対応した大学院教育の展開や社会的ニーズの分析など客観的根拠に基づく学位プログラムの不断の見直しなどを本学大学院が目指すべき姿として掲げている。

我が国の大学院教育システムは、既存の学問分野を超えた新たな境界領域を創出し発展させること、それを担う教育環境の整備が不十分であること、という課題を抱えている。この課題解決のために、九州大学では上記の大学院教育改革の具体的実行指針の一つとして、学府、専攻及び教育プログラムを横断するオーダーメイド型の大学院学位プログラムである「ダ・ヴィンチプログラム」の仕組みを令和元年12月に独自に構築した。この仕組みは、令和2年度に開始された国の「研究科等連係課程実施基本組織」の制度に先んじて本学独自に検討を進めていたものである。その特徴は、複数の学府が参画し学問分野をまたがった社会的課題を解決する人材育成、学生の課題意識に基づく柔軟な科目履修（オーダーメイド型カリキュラム）や最先端の教育研究活動のための企業や海外大学等の学外組織との連携等にあり、この前提条件に研究科等連係課程を組み込むことで、これまでにない枠組みとしている。

このように複数の学府等が参画して構築するダ・ヴィンチプログラムは、博士課程教育リーディングプログラム（3件採択）で培った特色ある人材育成のための学位プログラム構築・実施のノウハウや後に示すような本学独自の制度的・環境的土壌、さらには参画する3学府の優れた特徴・実績を有する九州大学でこそ、高い水準で構築・実施できると言える。

特に、『卓越大学院プログラム』事業の「各大学が自身の強みを核に、これまでの大学院改革の成果を生かし、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築することで、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材を育成するとともに、人材育成・交流及び新たな共同研究の創出が持続的に展開される卓越した拠点を形成する取組を推進する事業である」という趣旨からも、ダ・ヴィンチプログラムの枠組みを活用して3学府が連係・協力し、研究科等連係課程による安定的な体制のもと、『卓越大学院プログラム』を推進できることの意義は大きい。『卓越大学院プログラム』事業に採択された大学がこのように研究科等連係課程という組織体制の構築まで行って取り組むことは、公立大学、私立大学を含めても初めてであり、今後の我が国の大学院改革に大きなインパクトを与えることが期待される。

また、大学としてダ・ヴィンチプログラムを重視し、本学位プログラムを先導モデルとして組織整備に取り組むという姿勢を打ち出すことは、学生にとってこれまで以上に異分野融合教育研究の重要性・社会的ニーズを認識させるといった意識改革にも重要な役割を果たすと考える。さらに、日常的に複数の分野における教員、研究者、学生らと活動を共にすることで、自身の立ち位置をより明確に自覚することができるほか、様々なキャリアパスの可能性が拓けることは学生にとって大きなメリットである。このように異分野の学生達が研究科等連係課程という一つの組織の中で一体的に活動することで、分野を異にする学

生間での一体感も生まれ、分野の枠を超えて社会的ニーズに応えようという使命感も醸成されることが期待される。

【九州大学における制度的・環境的土壌】

- 学府・研究院制度**：平成12年度に日本で初めて大学院の教育研究組織である「研究科」を教育組織「学府」と研究組織「研究院」に分離。これにより、教員の研究活動の安定性を確保しつつ、自由で柔軟な教育組織やプログラムの設置・再編・活動が可能。
- 伊都キャンパス**：単一キャンパスとして国内最大規模を誇る。人文社会科学系から理学、工学、農学の拠点が設置され、日常的に各拠点が融合した教育活動が可能。
- 21世紀プログラム**：平成13年度に開始。学部の枠組みを超えた横断的な教育プログラム。学生は特定の学部・学科に所属するのではなく、自分が学びたいことの実現に向けて、カリキュラムをオーダーメイドで創る。
- 共創学部**：平成30年度に21世紀プログラムを発展させて設立。多様な人々との協働から異なる観点や学問的な知見の融合を図り新たなものを創造する「共創」がコンセプト。全学の研究院・研究所から教員が集結して教育活動を実施。

○**連携協力学府の優れた特徴・実績**

- ・ 「大学院数理学府」：数学の産業や社会への展開について日本で先駆けて組織的に取り組んできた本学府は、日本唯一の産業数学拠点として、抽象数学研究を発展させ、それを応用にまで昇華できる教員を抱える世界的にも稀有な研究所である「マス・フォア・インダストリ研究所 (IMI)」と協力して先進的な取組みを実施し、大学法人第2期業務評価において、831組織中2組織のみであった最高評価を獲得した。当該学府の特徴的な取組みとしては、企業における長期インターンシップをH18年度にいち早く単位化し、その結果これまでに延べ82人の博士後期課程学生を派遣したのがある。いまだに我が国においてこうした研究インターンシップを組織的に行っている数学系教育機関は九州大学だけである。この活動を通して、数学系博士人材が企業の研究開発部門などで現実の課題を解決し、数学の力を当該企業に示すことで、企業から共同研究の申し入れがあったり、学生が当該企業に採用されたりする事例がこれまでも複数ある。企業における研究チームに数学を知識基盤とするメンバーはほとんどおらず、学生であっても本質的な貢献ができることが明らかになってきている。企業の中で重要なメンバーとして認識され、課題解決に本質的役割を果たすことで、学生が数学研究へのモチベーションをさらにアップさせることができていることは特筆に値する。さらには、企業などの現場で生じている数学が関連する課題を、学生、教員、企業研究者が連携して短期間集中的に解決を図るスタディグループ活動は、我が国において九州大学が、東京大学と連携して始めた取り組みである。これにより、学生が企業との協働活動を経験することでその共創意識の醸成という観点から大きな成果を得てきている。

こうした取り組みの成果として、九州大学ではこれまでも多くの数学系博士人材を世に送り出してきており、その半数程度は産業界で数学を基盤とした仕事に就いて、数学で企業の研究チームをリードするなど、大きなインパクトを与えつつある。

- ・ 「大学院システム情報科学府」：本学府は、情報科学分野と電気電子工学分野が一体となった国内主要大学でも稀な教育組織であり、計測、通信、制御、エネルギーの装置・デバイスを代表とする関連

分野も含む教育を行う体制が整っている。例えば、データサイエンスの活用には、データを取得するセンシング技術やデータサイエンスによる解析結果を活用した意思決定も重要であるが、本学府ではこのような内容の教育も提供することができる。今後も情報分野と電気電子工学分野の教育に注力していくこととしている。また、当該学府ではenPiT（成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成）の連携大学として、組込みシステム分野（AI・ロボティクス、IoT）とセキュリティ分野に関する実践的なPBL教育に取り組んできた実績をもつ。さらに、本学「数理・データサイエンス教育研究センター」が主体となって実践的なデータサイエンス教育を全学的に展開している。なお、本学府を中心とする「数理・データサイエンス教育・研究センター」は、文部科学省指定の「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」全国6拠点の中で数学分野を担当している。加えて、「九州コンソーシアムによる副専攻型高度データサイエンス教育プログラム」として、データサイエンス分野においても実践的なPBL教育を実施している。このようにして、本学府学生のみならず九州大学の他学府学生や他大学学生および社会人を対象として、情報科学分野の基礎から最先端までの知識・理論および社会での実現力を有する人材を養成する体制を整備してきている。

- ・ 「大学院経済学府」：本学府は、日本で唯一の経済工学専攻を有しており、数理モデルをベースとした経済学を展開してきた実績を持ち、数理的・計量的方法論で経済学を学ぶことができる。同専攻では、複雑化・不確実性の度合いを強めつつ進化する現代社会の創造的発展をにないうる高度専門研究者・専門職業人の養成を目標としている。教育・研究上の特徴は、第1に、高度な理論的・計量的分析の手法を開発・使用して、経済問題を科学的に解明し、先端的研究領域における革新的・独創的な研究を切り開く創造的能力を身につけられる点にある。第2に、経済と政治が複雑に絡み合っている生きた経済社会に対する現実感覚にもとづいて政策課題を認識し、課題の研究を分析ツールにフィードバックしつつあらたに構想するという手法を学習できること。第3に、経済・経営問題に関する高度かつ最新の数理・情報解析の手法を開発・活用する能力等を修得できることである。経済システム解析講座では、数理的手法を用いてマクロ経済、ミクロ経済レベルでの諸問題を理論、実証の両面から分析する。ミクロ経済分析、情報の経済分析、経済モデル解析、マクロ経済分析、計量経済学、マクロ数量分析とから成り立ち、理論モデルを構築して、それをもとに現実問題の解決策を構想する。現代的な課題である公共政策、情報、環境、開発経済、景気変動等の理論的、実証的研究が展開されている。政策分析講座では、多様な経済問題に関する政策を分析し評価するための知識と手法を学び、新たに提言することが課題である。中心的なテーマは、市場による調整と公的な介入をどのようにバランスさせるか、効率と公正の両立等、財政、金融をはじめ雇用、福祉といった経済政策に直接結びついたものから、企業、政府及び政治のガバナンスの問題等も含む広範囲なものとなっている。数理情報講座では、経済分析のための数学的手法、数理計画法とその関連分野、経済・経営データの解析手法、数理ファイナンス等のための確率・統計理論とその応用、情報処理・管理のためのコンピュータ技術など、数理的理論や情報処理手法の研究が精力的に進められている。

なお、本学位プログラムの研究面における母体であるIMIは、アジア初の産業数学研究所として2011年に設立されて以来、極めて活発な活動を国内外で展開している。一定数の専任所員を配置し、優れたレベルでの基礎数学理論も研究しながら産学連携活動を盛んに行い、高度な大学院教育にも関与している研究所は世界的に見て非常にユニークである。これまで多様な分野において、数学を基盤とする社会

実装を含む産学・異分野連携を組織的に実施してきている。IMI出身の教員が現在、産業数学分野で世界を牽引していることも特筆に値する。

このように、九州大学のように、数学教育、特に産業界や社会とのつながりをしっかりと意識した組織的取組を行ってきた教育機関は他にないと言える。

こうした、いわばオンリーワン、かつナンバーワンの実績に基づき、本学位プログラムではそれをさらに他分野との横の連携を強化し、研究科等連係課程のメリットを十分に活かしてゆくことで発展させてゆく。これらは九州大学ならではの構想であり、産業界や社会から切望されている優秀な数学モデリング人材を輩出してゆくものである。

(4) 育成する人材像および修了後の進路

本学位プログラムの連係協力学府における教育・研究は、「数学モデルを用いて自然界や社会の様々な現象を解析して理解を深める」という点において本質的な共通項を持つ。

本学位プログラムの博士後期課程においては、連係する数理学府、システム情報科学府、経済学府でこれまでに培われてきた優れた専門的な教育・研究を基盤に、数学モデリングを通して組織や分野の垣根を越えて共創し、自らの専門分野の研究を高度なレベルで行い、国際的な視野でイノベーションを創発することのできる卓越した数学モデリング人材を育成する。博士前期課程においては、その前段階として、各連係協力学府の教育・研究を基盤に、基本的な数学モデリングを通して多様な組織や分野と共創して自らの専門分野の研究を行い、イノベーション創発に貢献できる人材を育成する。

本学位プログラムでは、主として数理学、システム情報科学、経済学を学ぶ学生の中から優れた数学的資質と他分野との共創に意欲を持つ学生を選抜し、基盤となる学問分野の学びを進展させながら、基本的に次の5つの力「マス・ファイブ・フォース(MFF)」を養成する。

①広範な数学分野に深く習熟し、高く柔軟な「数学力」

伝統的訓練を、時間をかけて粘り強く行い、基礎を徹底的に鍛える

②データハンドリングに必須の「統計力」

統計理論とプログラミングをバランスよく実践的に身につけさせる

③複雑な課題の本質を見抜き、数学モデルを構築する「モデリング力」

他分野の課題を理解し数学・統計から適切な手法を抽出してモデル化

④数学と他分野の知識を持ちこれらの分野の研究者と協働し創造する「共創力」

数学と他分野の言葉、文化を理解しチームワークを作る

⑤以上の4つの力を統合してイノベーションを創出する「創発力」

4つの力を統合し局面や場合に応じて必要な力を発揮する

「5年一貫の博士課程学位プログラム」の考え方を基本としつつ、上述のMFFの段階的養成を念頭に置き、本学位プログラムでは次のような人材を育成する。

まず、博士前期課程においては、授与する学位の分野に応じた学術基盤に加え、社会の多様な分野での課題解決に必要な「数学力」・「統計力」・基礎「モデリング力」を養成し、それにもとづいた基本

的な実践的活動を通して、実践「モデリング力」、基本的な「共創力」、さらには基礎的な「創発力」を養成する。こうして、社会における多様な分野で数学へのニーズに応え、「数理資本主義」なる新しい産業・社会構造の中で、研究機関等のみならず、企業や官庁等社会の幅広い場面において、数学を活用して現状分析や課題解決策の企画立案等ができる知識・能力を修得した、中・長期的に日本の国力の強化に貢献できる人材を育成する。

博士前期課程修了後の進路は、博士後期課程への進学を基本として考えてはいるが、本学位プログラム博士前期課程修了生は、数学モデリングを通して、大学等の研究機関のみならず社会の多様な場面において、異分野や産業界との共創の経験を背景にしたレベルの高い活躍により、社会における数学モデリング人材への強い要請に応えることが期待される人材であると言える。

具体的な進路としては、数学・数理科学をはじめとする様々な学術分野における研究員、産業界での研究開発部門、あるいは官庁など、多様で幅広いキャリアパスが想定される。特に、企業や官庁等においては、数学モデリングを活用した現状分析や課題解決策等の企画立案の必要性は認識されているものの、それを実行に移せる数学モデリング人材が不足していると考えられるが、本学位プログラムの博士前期課程修了生は、そうした社会的課題に応える人材として活躍することが期待される。そして、企業等へ継続的に数学モデリング人材を輩出することで、社会の様々な分野で数学を本質的に用いた技術・手法が普及していくことになる。一例としては、数学モデリングと最適化理論により製造過程の大規模な効率化を図ってモノづくり日本の発展に貢献することが考えられる。このように、社会に出た数学モデリング人材が社会的インパクトを与えることを通じ、我が国、ひいては世界を変える原動力となってゆく。

さらに博士後期課程では、博士前期課程段階で身に付けた授与する学位の分野に応じた学術基盤をさらに強化するとともに、卓越したレベルの「数学力」・「統計力」・基礎「モデリング力」を養成し、それらにもとづいた種々の高度な実践的活動を通して、高いレベルの実践「モデリング力」、「共創力」、さらには優れた「創発力」を養成する。こうした高度のMFを備えた数学モデリング人材、いわばマス・フォア・イノベーション プロフェッショナル (MFIプロフェッショナル) は、国際社会における多様な分野や組織で数学への高度なニーズに存分に答え、「数理資本主義」なる新しい産業・社会構造の中核で研究を通じ社会を牽引、中・長期的に日本の国力を飛躍的に強化する。

したがって、人材育成については、これまでの数理学府、システム情報科学府、経済学府の実績も活かし研究者の育成に重点を置いているが、学生個々の能力・関心等に応じた多様な進路選択にも対応することとしている。

博士後期課程修了後の進路としては、数学・数理科学をはじめとする様々な学術分野におけるアカデミックなポジション、産業界での研究開発部門、経営者、あるいは官庁等の専門スタッフなど、多様で幅広いキャリアパスを想定している。社会における高度な数学モデリング人材への需要は高まるばかりであり、本学位プログラムの博士後期課程修了生は、そうした社会的課題に応える人材として活躍することが大いに期待される。こうした人材を継続的に輩出することで、社会の様々な分野で数学を本質的に用いた技術・手法が生まれる。例えば、金融取引、道路交通網といった様々な社会システムのリスクを数学的に評価することで、より安全・安心な社会への実現に貢献する、あるいは少ない気象データか

ら災害を予測して適切な対策を早期に講じるなどというように、高度な数学モデリング人材は、様々な社会的インパクトを与えることを通じ、我が国、ひいては世界を変える原動力となるイノベーション創出を先導してゆく。

(5) 本学位プログラムにおいて研究対象とする中心的な学問分野

数学、数理科学、および情報科学、理学、工学、経済学を中心に、文系も含む幅広い分野を想定している。本学位プログラムは、数学を横串に、特色ある組織や教員を総動員して構築する分野横断型の学位プログラムである。ただし、基礎となる学府である数理学府、システム情報科学府、経済学府において研究教育している学問分野があくまでも中心となる。

2. 学位プログラムの名称及び学位の名称

(1) 学位プログラムの名称

新たに設置する学位プログラムの名称：マス・フォア・イノベーション連係学府

(Joint Graduate School of Mathematics for Innovation)

本学において確立した前述の学府・研究院制度は、大学院を教育組織（学府）と研究組織（研究院）に分離することにより、学府教育への研究院の枠を超えた多様な教員の参加を可能とするものである。そのため、従来の学府の存在を前提に、これらの複数の学府の連係・協力のもとに研究科等連係課程を活用して設置する本学の組織について「連係学府」と称することは、本学の教育研究組織の名称との関係性・連続性に加えて、教育課程の内容を適確に表すものとして極めて妥当と考える。

本学位プログラムにおいて育成を目指す「イノベーションを創発するための高度な数学」を活用することのできる人材、という意味で、「マス・フォア・イノベーション」(Math-for-Innovation)という名称を採用する。

(2) 学位の名称

授与する学位に付記する専攻分野の名称は次のいずれかとする。

【博士前期課程】

修士（数理学）、修士（技術数理学）、修士（情報科学）、修士（理学）、修士（工学）、修士（学術）、
修士（経済学）

【博士後期課程】

博士（数理学）、博士（機能数理学）、博士（情報科学）、博士（理学）、博士（工学）、博士（学術）、
博士（経済学）

本学位プログラムの中心的な学問分野が数学、数理学、および情報科学、理学、工学、経済学であることを考慮し、基礎となる学府である数理学府、システム情報科学府、経済学府において授与しているものと同一の学位としている。

本学位プログラムでは、組織や分野の垣根を越えて各分野で共創し、イノベーションを創発する人材を育成することを目的としているため、個々の学生が関心を示す研究テーマは多岐の分野にわたることが想定される。ただし、あくまでも数学・数理学を横串にして各分野との協働による研究成果を目指すことから、数学分野と親和性の高い上記の学問分野が根幹となるものである。

授与する学位に付記する専攻分野の名称については、学位審査の際に、既修得科目、あるいは学位論文（さらに、博士の学位については、修士論文、Prelims、Preliminary Thesis Exam）の内容との整合性を、プログラム担当者などからなるプログラム実施委員会（詳細は「9. 管理運営（2）」に後述）において協議し決定する。その際、中心的な学問分野以外への応用などをテーマとする内容である場合であっても、その基礎となる学術的基盤、手法、アイデアなどを総合的に判断し、これらの学問分野の範囲において専攻分野の名称を決定するものとする。

この点、博士（経済学）の学位を例に挙げて補足すると、経済学の学位は、広い意味での経済学に関する研究に立脚したものとして理解されている。本学位プログラム博士後期課程修了生の学位論文は、通常の経済工学専攻修了生の学位論文より数理的専門性が高くなることが予想されるが、過去に複数の数学者がノーベル経済学賞を受賞していることから理解されるように、経済学は数学との親和性が高い学問である。また、本学としては、本学位プログラムにおいて経済学の学位の授与を希望する学生に対しては、博士前期課程での専攻教育科目の履修や研究指導を通じ、経済学を学問的基礎とした教育を展開することとしている。これらの点から、本学位プログラム修了者の学位の分野を経済学として認定することには特段の問題はないものと考えている。

（博士学位論文題目の例）

- 博士（数理学）：リーマン予想の量子計算機を援用した証明について
- 博士（機能数理学）：最適化理論を用いた超効率的生産システムの構築
- 博士（情報科学）：圏論的手法による巨大システムの動作保証
- 博士（理学）：生物リズムの力学系理論
- 博士（工学）：自然災害予測のための関数解析学における新概念
- 博士（学術）：位相的データ解析に基づく政策決定の新手法について
- 博士（経済学）：社会ネットワーク構造の数理的解析と経済的規制の妥当性について

なお、博士の学位記については、本学位プログラムの実施主体や性格を明示する様式を定めることとしている（図1参照）。

マス博甲第〇〇〇〇号

学 位 記

氏 名
生年月日

本学大学院数理学府及びシステム情報科学府並びに経済
 学府との緊密な連携及び協力の下横断的な分野に係る教育
 課程を実施する大学院マス・フォア・イノベーション関係学
 府において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試
 験に合格したので博士（学位名）（マス・フォア・イノベ
 ーション卓越大学院プログラム）の学位を授与する

令和 年 月 日

九州大学

図 1 : 学位記モデル

(3) 英語名称について

【博士前期課程】

修士（数理学）: Master of Mathematics、修士（技術数理学）: Master of Mathematics Administration、
 修士（情報科学）: Master of Information Science、修士（理学）: Master of Science、
 修士（工学）: Master of Engineering、修士（学術）: Master of Philosophy、
 修士（経済学）: Master of Economics

【博士後期課程】

博士（数理学）: Doctor of Philosophy [Mathematics]、博士（機能数理学）: Doctor of Functional
 Mathematics、博士（情報科学）: Doctor of Information Science、博士（理学）: Doctor of Science、
 博士（工学）: Doctor of Engineering、博士（学術）: Doctor of Philosophy、
 博士（経済学）: Ph. D. in Economics

3. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 研究科等連係課程の活用

MFIプロフェッショナル育成のため、以下の方針で学位プログラムを構築する。

IMIがある本学でさえも、これまでカリキュラムとして数理学専攻の学生が他専攻の学生と交流して他分野の教員から教育を受ける機会はほとんどなかった。これらの交流・教育や（数理学専攻・他分野専攻に）必要な知識・技術の習得は自主学習に任されているのが実態である。そのため、より上位のスキルに至らず、異分野連携活動にも多くの課題を抱えている。本学位プログラムでは、教育組織・研究組織を分離して柔軟な運営を可能にする本学独自の学府・研究院制度、及び本学位プログラムに最適なオーダーメイド型カリキュラム実現のため、分野横断型の新学位プログラム「ダ・ヴィンチプログラム」をフル活用し、数学と他分野の教育組織の恒常的・強力な有機的連携を形成する。

本学位プログラムは、連係協力学府以外の学府とも連携し、政策立案、ビジネス、経営、法律、医療、医学、感性、脳科学、生物、物理、計算科学、デザイン、気候、農業、宇宙、エネルギー等、総合大学である本学の持つリソースを活かし、多様な分野の第一線の研究者を「横」に結集することで実現する。また、学生はこれらの教員から最先端の教育を受けることはもちろん、逆に学生が共同研究等において教員や他の学生を数学面でリードするなどの「縦」の連携も強化する。これらの特徴的な縦横マルチ方向の連携による教員・学生一体となった大学院改革の新しい形を、本学はもちろん他大学にも提示・発信し、そのノウハウ・成果を波及させていく。

(2) 教育課程の編成の考え方

MFIプロフェッショナルとなるために必要な5つの力である「マス・ファイブ・フォース（①数学力 ②統計力 ③モデリング力 ④共創力 ⑤創発力）」を養成するため、科目群の編成方針を次のとおり定める。

①数学力、②統計力、③モデリング力は、博士前期課程において最初に設置する「トランジション基礎科目群」を通して、高いレベルでバランスよく養成する。④共創力は、「数学共創実践科目群」を通して養成する。その中核「数学共創モデリング」（博士前期課程）では、学生が共創研究分野の研究室などに所属し、共創メンターの指導の下、当該分野の学生、若手教員等と協働しつつ基礎的事項を学び、数学モデリングの側面から貢献し、共同研究に取り組む。⑤創発力は、「創発力養成科目群」を通じて養成する。特に数学創発モデリング（博士後期課程）では、学生を共創研究分野の教員のもとに派遣し、リバースマンターとして、他分野の教員や学生の研究を数学モデリングの観点から先導する機会を経験させる。

また、「専攻教育科目群」においては、授与する学位の分野に応じた学術基盤を養成する。

(3) カリキュラムを構成する科目群

各科目群の科目構成は次のとおりである。

○トランジション基礎科目群

【博士前期課程】

- ・基礎科目：「数学共創基礎 I～XX」（1～20 単位、うち4 単位必修）、「数学共創概論 I～X」（2～20 単位）
- ・トランジション科目：「数学トランジション基礎 I～VI」（1～10 単位）
(システム情報科学、経済学を学ぶ学生向け)

○数学共創実践科目群

【博士前期課程】

- ・インターンシップ科目：「数学共創モデリング」（4 単位必修）

【博士後期課程】

- ・インターンシップ科目：「国際共創力強化インターンシップ」（4 単位）、「異分野共創力強化インターンシップ」（4 単位）、「産学共創力強化インターンシップ」（4 単位）

○創発力養成科目群

【博士前期課程】

- ・講究科目：「卓越基礎講究」（10 単位必修）

【博士後期課程】

- ・インターンシップ科目：「数学創発モデリング」（2 単位必修）
- ・プレゼンテーション科目：「卓越論報」（2 単位必修）
- ・講究科目：「卓越講究」（8 単位必修）

○専攻教育科目群

【博士前期課程】

- ・専攻教育科目：学位の分野と関連する各連係協力学府の専攻教育科目

(4) マス・ファイブ・フォース養成カリキュラム

本学位プログラムで育成する人材 (MFIプロフェッショナル) に求められる5つの力「マス・ファイブ・フォース (MFF)」をディプロマ・ポリシーにおける「学修目標」に表し、その学修目標と授業科目の到達目標を紐付け、ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程を編成する。

5年間のカリキュラムの概要は図2のとおり

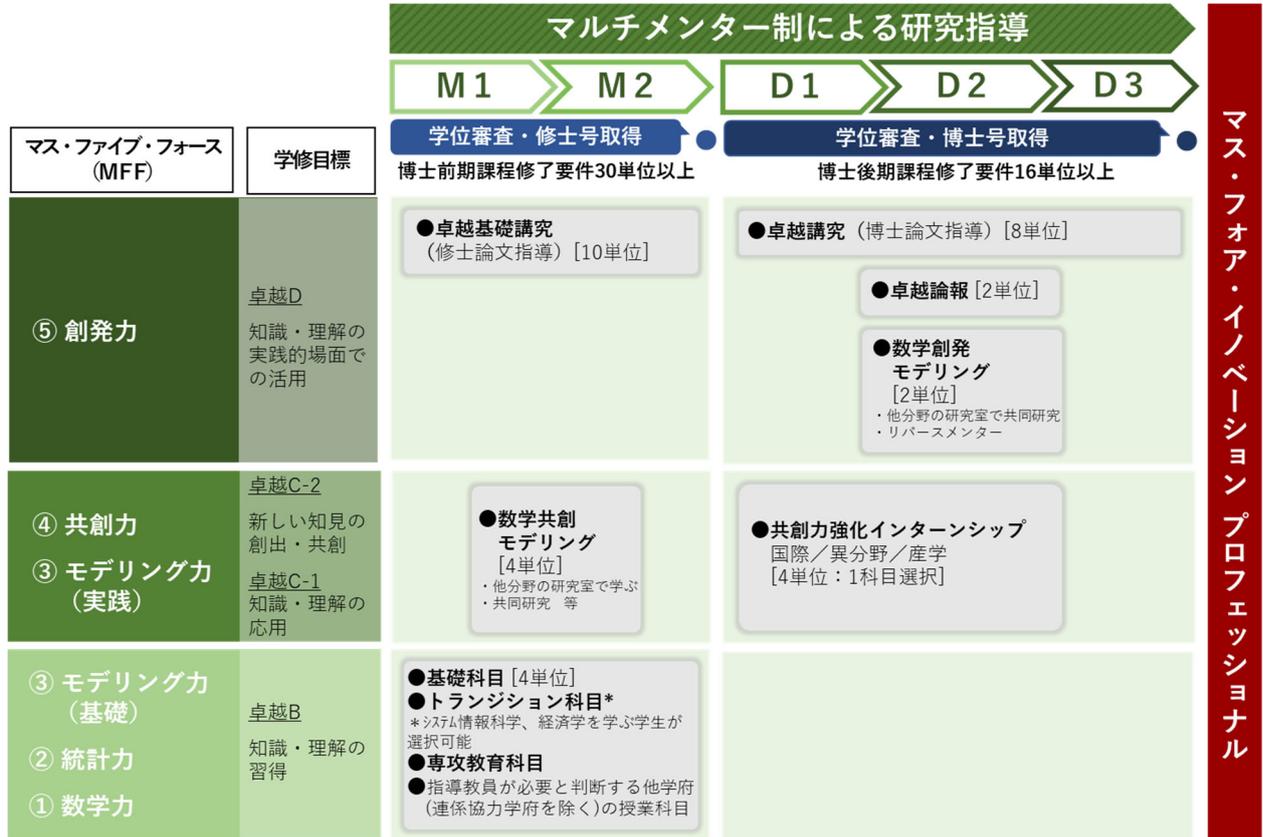


図2：カリキュラムの概要

(5) ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>教育の目的と養成する人材像</p> <p>人工知能技術の爆発的発展により、データサイエンスは学術、技術、ビジネス、生活のあり方を激変させている。その柱となる数学の特長は、不変な理論的基盤を提供する厳密性と、変化する状況に柔軟に対応できる汎用性である。数学には、これらの強みを最大限に生かし、他分野との積極的な協働を通して、人類社会の未来を切り拓く役割が期待されている。特に、現実世界の諸問題を数学モデルとして定式化することにより数学的解析を可能にする数学モデリングは、現代社会の広範な領域において客観的に検証可能な方法論として重要な位置を占める。</p> <p>本学位プログラムの連係協力学府である数理学府、システム情報科学府、経済学府における教育・研究は「数学モデルを用いて自然界や社会の様々な現象を解析して理解を深める」という点において本質的な共通項を持つ。本学位プログラムの博士後期課程においては、これまで培われた各連係協力学府の優れた専門的な教育・研</p>
-------	---

教育の目的
(続き)

究を基盤に、数学モデリングを通して組織や分野の垣根を越えて共創し、自らの専門分野の研究を高度なレベルで行い、国際的な視野でイノベーションを創発することのできる卓越した数学モデリング人材を育成する。博士前期課程においては、その前段階として、各連係協力学府の教育・研究を基盤に、基本的な数学モデリングを通して多様な組織や分野と共創して自らの専門分野の研究を行い、イノベーション創発に貢献できる人材を育成する。

本学位プログラムは、主として数理学、システム情報科学、経済学を学ぶ学生の中から優れた数学的資質と他分野との共創に意欲を持つ学生を選抜し、基盤となる学問分野の学びを発展させながら、「数学力」、「統計力」、「モデリング力」、「共創力」、さらにそれらを統合してイノベーションを創出する「創発力」も養う。(この5つの力を以下 MFF = Math-Five-Force と称す。)ダ・ヴィンチプログラム設立の趣旨に基づき、各学生が学問の必要性や興味に応じて分野を横断した様々な課題の中から選択して学習と研究を進められるように、マルチメンター制を併用した柔軟で個別的な研究指導体制を敷き、「数学モデリング」を共通項としてカリキュラムを編成する。

本学位プログラムのカリキュラムは連係協力学府での専門的教育課程を基盤とし、高度で先端的な数学モデリングの技術を習得し、それをを用いて他分野との共創の経験を積むための科目を設定する。連係協力学府での専門的教育課程に相応する科目として「講究科目(セミナー)」と「専攻教育科目」を置く。また、システム情報科学、経済学を学ぶ学生に対して、現代的な数学を運用する共通の基礎力を養う「トランジション科目」を置く。そのうえで、本学位プログラムの卓越性を保証する中核科目として

1. 高度で先端的な数学モデリングの技術の基盤となる、広範かつ発展的な「数学力」・「統計力」を涵養する「基礎科目」(博士前期課程)
2. 実践的な場面で、数学モデリングを行う「モデリング力」及び、他分野との「共創力」を涵養する「インターンシップ科目」(博士前期課程、博士後期課程)
3. 研究課題や研究の方向性について、組織や分野の垣根を越えて分かりやすく説明することのできる力を養う「プレゼンテーション科目」(博士後期課程)

を置く。

博士前期課程では、以下の30単位以上を修得し、かつ修士論文審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。

1. 基礎科目 4単位以上(「数学共創基礎 I ~ XX」の4単位を含む)
2. インターンシップ科目 4単位以上
3. 講究科目 10単位
4. 各連係協力学府専攻教育科目 12単位以上

(学位の分野と関連する学府の専攻教育科目※)

※数理学府数理学専攻、システム情報科学府情報理工学専攻・電気電子工学専攻、経済学府経済工学専攻それぞれの開設科目の中から、体系的かつ効果的の学修が可能となるよう、指導教員を中心に履修指導の上、履修科目を適切に選択。

(以下の科目も「各連係協力学府専攻教育科目(12単位)」に含めることができる)

<p>教育の目的 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トランジション科目 (システム情報科学府及び経済学府経済工学専攻に係る入学者選抜に合格した者に限る。) ・基礎科目のうち4単位を超えて履修する科目 ・指導教員が必要と判断する他学府 (関係協力学府を除く) の授業科目 <p>博士後期課程では、以下の16単位以上を修得し、かつ、博士論文審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップ科目 6単位以上 (「数学創発モデリング」の2単位を含む) 2. プレゼンテーション科目 2単位 3. 講究科目 8単位 <p>学位授与の方針</p> <p>(博士前期課程)</p> <p>授与する学位の分野に応じ、関係する数理学府、システム情報科学府、経済学府において展開される専攻教育科目を通じて身に付けた学術基盤に加え、共創に必要な「数学力」・「統計力」・「数学モデリング力」・「共創力」、さらに基本的な「創発力」を身に付け、異分野や産業界との共創の経験を背景にしたレベルの高い研究に基づく修士論文を完成し、審査に合格した者に対し修士の学位を授与する。</p> <p>(博士後期課程)</p> <p>博士前期課程段階で身に付けた授与する学位の分野に応じた学術基盤をさらに強化し、共創に必要な高度な「数学力」・「統計力」・「数学モデリング力」・「共創力」、および異分野や産業界との共創によるイノベーションを生み出す高度な「創発力」、すなわちMFFを身に付けた上で、自身の専門分野の卓越したレベルの研究に基づく博士論文を完成し、審査に合格した者に対し博士の学位を授与する。</p> <p>学位に付記する専攻分野の名称は次のいずれかとする。</p> <p>(博士前期課程)</p> <p>修士 (数理学)、修士 (技術数理学)、修士 (情報科学)、修士 (理学)、修士 (工学)、修士 (学術)、修士 (経済学)</p> <p>(博士後期課程)</p> <p>博士 (数理学)、博士 (機能数理学)、博士 (情報科学)、博士 (理学)、博士 (工学)、博士 (学術)、博士 (経済学)</p>
<p>参照基準</p>	<p>日本学術会議『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 数理学分野』2013年 を参照 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h130918.pdf</p>
<p>学修目標</p>	<p>卓越B. 知識・理解の習得 (知識・理解) (博士前期課程)</p> <p>卓越B-1. 現代数学を運用するために必要な基礎的な概念・知識を習得する。—「数学力」「統計力」【システム情報科学、経済学を学ぶ学生向け】</p> <p>卓越B-2. 数学モデリングで必要となる広範な数学的基礎知識を習得し、一般的な方法論と具体的な事例について理解する。—「数学力」「統計力」および基礎「モデリング力」</p>

学修目標 (続き)	<p>卓越 C. 知識・理解の応用（博士前期課程、博士後期課程）</p> <p>卓越 C-1. 知識・理解の応用（適用・分析）－実践「モデリング力」 分野を横断した様々な問題について、数学モデリングを用いることで数学の言葉で記述し、他者と共有することで議論を深めることができる。</p> <p>卓越 C-2. 新しい知見の創出（評価・創造）－「共創力」</p> <p>C-2-1.（新しい知見の創出）分野を横断した様々な問題の数学モデルに対して、数学的な解析を行うことで新たな知見を創出することができる。</p> <p>C-2-2.（新しい知見の共創）数学モデリングを用いて得られた知見について、論文や口頭発表の形で他分野の研究者や関係者に説明し、議論を通して共創することができる。</p> <p>卓越 D. 知識・理解の実践的場面での活用（実践）－「創発力」（博士前期課程、博士後期課程）</p> <p>数学モデリングの知識と方法論を用いることで、自らの専門分野の研究を発展させるとともに、異分野や産業界との共創によりイノベーションを創発する能力を身に付ける。</p>
----------------------	---

(6) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、図3（カリキュラム・マップ）に示す通り、以下の指針に基づいて教育課程を編成する。

【コースワーク】

本学位プログラムにおいては、各学生が修得を目指す学位の分野に係る学術基盤を身に付けるための、各連係協力学府における「専攻教育科目」に加えて、数学モデリングを理解し、活用する上で必要になる広範かつ発展的な知識・技能を習得し、実践的な場面での共創力を身に付けるために以下の科目を設定する。

1. 「数学力」「統計力」および基礎「モデリング力」を養成するための**基礎科目・トランジション科目**《学修目標 卓越 B》（博士前期課程）

1-1. 数学共創基礎 I ～ XX 《学修目標 卓越 B-2》

「数学力」・「統計力」・「モデリング力」の基礎を徹底的に習得するため、学生が最初に学ぶ科目。

1-2. 数学共創概論 I ～ X 《学修目標 卓越 B-2》

数学モデリングに必要な知識の習得を目的に、基礎から応用まで幅広く関連するテーマについて学習する科目。

1-3. 数学トランジション基礎 I ～ VI 《学修目標 卓越 B-1》【システム情報科学、経済学を学ぶ学生向け】

学士課程専門教育レベルの数学を履修していない学生が本学位プログラムを円滑に履修できるように、学生の到達度に応じて、現代数学の基礎的な知識と概念を習得する科目。

2. 実践「モデリング力」および「共創力」「創発力」を養成するためのインターンシップ科目 《学修目標 卓越 C, 卓越 D》

2-1. 数学共創モデリング 《学修目標 卓越 C》(博士前期課程)

学生がそれぞれの希望や志向に応じた異分野の研究室等で、学生、若手教員らと協働しつつ、その分野の基礎的事項を学ぶ。さらに、数学モデリングの側面から貢献し、共同研究・共著論文・学会発表等に取り組む。

2-2. 国際共創力強化インターンシップ、異分野共創力強化インターンシップ、産学共創力強化インターンシップ 《学修目標 卓越 C, 卓越 D》(博士後期課程)

これらのインターンシップは、博士後期課程における選択必修とし、共創力強化を図る。「国際」では、海外の大学・研究機関等において研究と研究開発（業務）の実習を実施する。「異分野」では、異分野の研究拠点等に長期滞在し、数学モデリングの観点から貢献して共同研究を行う。「産学」では、産業界の協力の下、企業での研究に参加し、研究開発（業務）の実習を実施する。

2-3. 数学創発モデリング 《学修目標 卓越 D》(博士後期課程)

学生を異分野の学内教員のもとに派遣し、当該学生がリバースメンターとなり、数学モデリングの観点から教員や他の学生をリードする。学生に数学モデリングで他分野の研究に貢献する経験をさせることで、学生本人のスキル向上と異分野への革新的な数学モデリングと解析手法をもたらすことを目標とする。

3. 実践「モデリング力」および「共創力」を養成するためのプレゼンテーション科目

卓越論報 《学修目標 卓越 C》(博士後期課程)

博士後期課程2年までの実績を中心に中間報告書を作成し、その内容について口頭発表を行う。研究の背景・過程・今後の戦略、数学共創モデリングや共創力強化インターンシップ等の数学共創実践に関する口頭発表、提出資料等に基づき、到達度、および博士論文に至る研究戦略を評価し、博士論文執筆資格を審査する。

4. 「創発力」を養成するための講究科目

卓越基礎講究・卓越講究 《学修目標 卓越 D》(博士前期課程、博士後期課程)

学生の基盤となる学問分野が展開される連係協力学府の教員による専門的な研究指導によるセミナーに対応する科目。この科目の履修により、中心となる学問分野である数学、数理科学、情報科学、理学、工学、経済学の学術基盤のさらなる深化と強化を図るとともに、本学位プログラムの履修で身に付けた数学モデリングの技術や MFF を用いることで、より高度で分野横断的な研究を行う。そうした中で、自身の中心的学問分野における研究を進め、修士論文や博士論文の執筆へとつなげてゆく。

【学位論文審査体制】

(博士前期課程) 提出された修士論文および最終試験（口頭発表）に基づいて、プログラム実施委員会がプログラム担当者等を構成員として設置する MFF 評価委員会において審査する。

(博士後期課程) 提出された博士論文および最終試験 (ディフェンス) における発表に基づいて、プログラム実施委員会がプログラム担当者や共創分野の研究者等を構成員として設置する MFF 審査委員会 (博士号) において審査する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み (内部質保証)】

学修目標の達成度は、以下の方針 (アセスメントポリシー) に基づいて評価する。評価結果に基づいて、研究指導体制、講義科目の教授方法や配置等の改善の必要性がないかを、プログラム実施委員会において継続的に検討する。

《アセスメント・ポリシー》

学位審査において学修目標の到達度の評価を実施する。

カリキュラム・マップ

		基礎科目	トランジション科目	インターンシップ科目	プレゼンテーション科目	講究科目		
学年		博士前期課程				博士後期課程		
学修目標		M1		M2		D1	D2	D3
		前期	後期	前期	後期			
D. 知識・理解の実践的場面の活用	実践「 創発力 」	【必修】卓越基礎講義 (10)				【必修】卓越講究 (8)		
	卓越D. 知識・理解の実践的場面の活用 (実践) 数学モデリングの多様な知識と方法論を用いることで、自らの専門分野の研究を進展させるとともに、異分野や産業界との共創によりイノベーションを創発する能力を身に付ける。					【必修】卓越論報 (2) 【必修】数学創発モデリング (2) 【選択必修】 国際共創力強化インターンシップ (4) 異分野共創力強化インターンシップ (4) 産学共創力強化インターンシップ (4)		
C. 知識・理解の応用	C-2. 評価・創造「 共創力 」	卓越C-2-2. (新しい知見の共創) 数学モデリングを用いて得られた知見について、論文や口頭発表の形で他分野の研究者や関係者に説明し、議論を通して共創することができる。		【必修】数学共創モデリング (4)		【必修】数学創発モデリング (2)		
	C-1. 適用・分析実践「 モデリング力 」	卓越C-2-1 (新しい知見の創出) 分野を横断した様々な問題の数学モデルに対して、数学的な解析を行うことで新たな知見を創出することができる。				【選択必修】 国際共創力強化インターンシップ (4) 異分野共創力強化インターンシップ (4) 産学共創力強化インターンシップ (4)		
B. 知識・理解の習得	知識・理解「 数学力 」、 「統計力」 、 「基礎」 「 モデリング力 」	卓越B-2. 数学モデリングが必要となる広範な数学的基礎知識を習得し、一般的な方法論と具体的な事例について理解する。		数学共創概論 I～X (2)				
	卓越B-1. 現代数学の基礎的な概念について知識・理解を習得する。【システム情報科学府、経済学府に学籍を置く学生向け】	数学共創基礎 I～VIII (1) 数学共創基礎XIII～XX (1)	数学共創基礎 IX～XII (1)					
学年		M1		M2		D1	D2	D3
アセスメント計画		学位審査において学修目標の達成度評価				学位審査において学修目標の達成度評価		

図3：カリキュラム・マップ

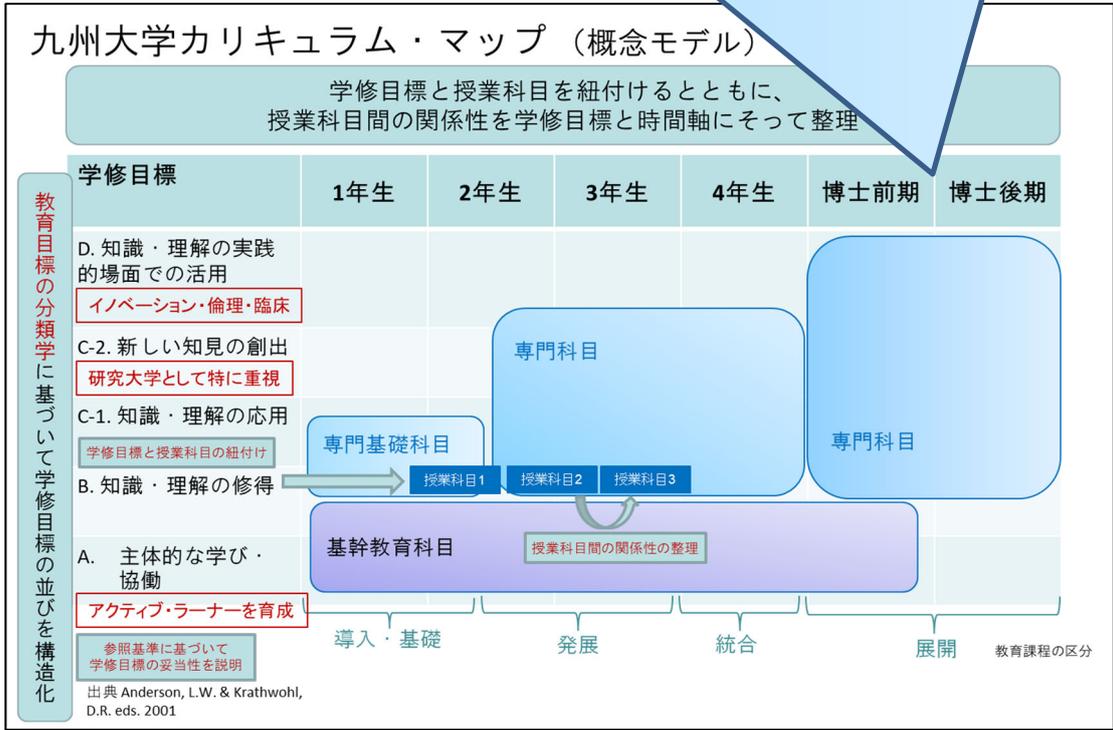


図4：【参考】九州大学カリキュラム・マップ (概念モデル)

4. 教育方法、履修指導、研究指導方法及び修了要件

(1) 教育方法、履修指導の考え方

①教育方法、履修指導の考え方と主要な授業科目の実施方法

学位の分野に応じた学術基盤の養成

【博士前期課程】

博士前期課程では、分野として、「数理学」、「技術数理学」、「情報科学」、「理学」、「工学」、「学術」、「経済学」の学位を授与することとしているが、これらの学位を授与するにあたり、当該学位の分野に応じた学術基盤を修得させる必要があるため、数理学府数理学専攻、システム情報科学府情報理工学専攻・電気電子工学専攻、経済学府経済工学専攻の学位の分野に関係する学府において所要の専攻教育科目を修得させることとしている。

「経済学」の学位を授与するにあたっては、経済学府経済工学専攻で開講する専攻教育科目を中心に12単位以上を修得することにより、経済学に係る学術基盤を養成する。具体的には、指導教員を中心とした履修指導により、経済理論Ⅰ、経済理論Ⅱ等の学術基盤の養成に特に重要な科目を修得させる体制をとることで、確実に経済学の基本的な知識を修得させるようにする。

「情報科学」、「理学」、「工学」、「学術」の学位については、システム情報科学府の各専攻に配置されている「コア科目」を学術基盤の養成に特に重要な科目としており、各学生の研究内容に応じて、コア科目の中から6単位以上を修得させる。

「数理学」、「技術数理学」の学位の授与にあたっては、各学生の研究内容に応じた学術基盤の養成に必要な科目を適切に履修させる。

その際、履修させる専攻教育科目については、指導教員が各学生に対し、学位の分野に応じ、当該学生が体系的かつ効果的に学修できるよう、必要な専攻教育科目の履修指導を行うことを基本としつつ、これにヤングメンターとして学生と同世代の学術研究員も加わることで、個々の学生の学修や研究の進捗状況を把握しながらきめ細やかな指導を行う。

また、このことを通じ、「創発力」を養成するための「卓越基礎講究」履修にあたっての基盤を養う側面も有している。

具体的には、それぞれの学位の分野に対して、たとえば以下のような専攻教育科目の履修が想定される。

「数理学」：確率論大意、関数解析大意、表現論大意、確率論基礎・演習、アクチュアリ数理

「技術数理学」：数理科学Ⅰ、計算数理学Ⅰ、機能数理学概論Ⅱ、最適化理論基礎・演習、統計数理学大意

「情報科学」：コンピュータシステム・アーキテクチャ特論、プログラム設計論特論、情報ネットワーク特論、量子計算機科学技術特論Ⅰ、量子計算機科学技術特論Ⅱ

「理学」：情報論的学習論 I、情報論的学習論 II、グラフ理論・組み合わせ論 I、グラフ理論・組み合わせ論 II、機械学習特論 I、機械学習特論 II、計算論 I、計算論 II

「工学」：バイオ電子工学特論 I、バイオ電子工学特論 II、ナノプロセス工学特論 I、ナノプロセス工学特論 II、光・量子デバイス基礎論 I、光・量子デバイス基礎論 II、LSI デバイス物理特論 I、LSI デバイス物理特論 II

「学術」：ロバスト制御系設計特論 I、ロバスト制御系設計特論 II、マルチエージェントシステム基礎 I、マルチエージェントシステム基礎 II、凸最適化に基づく制御系設計理論 I、凸最適化に基づく制御系設計理論 II、超伝導工学特論 I、超伝導工学特論 II

「経済学」：計量分析 I、計量分析 II、計量分析 III、経済数学特研 I、経済理論 I、経済理論 II、経済理論 III、マクロ数量分析特研 I

【博士後期課程】

博士後期課程では、分野として、「数理学」、「機能数理学」、「情報科学」、「理学」、「工学」、「学術」、「経済学」の学位を授与することとしているが、これらの学位を授与するにあたっては、博士前期課程段階で身に付けた当該学位の分野に応じた学術基盤に基づき、指導教員が「卓越講究」を通して高度な学術基盤の養成を行うことで、よりレベルの高い専門性を身に付けることとしている。

なお、「機能数理学」の学位に関して、博士前期課程段階で身に付けることが想定されている学術基盤は、「数理学」もしくは「技術数理学」の学位に対応するものと考えている。

「マス・ファイブ・フォース (MFF)」の養成

【博士前期課程】

博士前期課程の最初に配置する「トランジション基礎科目群」、及び「専攻教育科目群」は、主に講義とそれにとまなう演習により行う。講義は特に人数を少なくすることはないが、演習については、より実践的観点での教育をきめ細かく行うことを目的として、一部少人数で行うこともある。

「数学共創実践科目群」として配置する「インターンシップ科目：数学共創モデリング」では、学生は共創研究分野の研究室や研究グループなどに所属し、学内の共創メンターの指導のもと、当該分野の学生、若手教員達と協働しつつその分野の基礎的事項を学ぶ（1研究室あたりの学生数は3名程度）。また、数学モデリングの側面から当該分野に貢献しつつ、共同研究・共著論文・学会発表等に取り組む。

【博士後期課程】

「創発力養成科目群」である「インターンシップ科目：数学創発モデリング」は、基本的には数学共創モデリング（博士前期課程）と同様の体制で実施するが、創発力養成を図るため、学生は数学モデリングの観点から、より主導的な立場での貢献を行うこととしている。

その他のインターンシップ科目では、学外の大学、研究機関、企業等において、当該機関の研究者等と共創しつつ研究活動を行う。各活動は、主として個々の学生で独立に行い、複数の学生が同時に同じ機関でのインターンシップを行うことは想定していない。これは、学生本人のスキル向上やコミュニケーション能力の増進を意図するものであるが、後述するマルチメンター制度による研究指導により支援

する体制は整えている。

「プレゼンテーション科目：卓越論報」は、研究の背景・過程・戦略、数学共創実践等に関する学生による口頭発表、及び提出資料に基づき、実施する。(博士後期課程2年終了時に、当該学生をまとめて実施)

【博士前期課程、博士後期課程】

「講究科目：卓越基礎講究、卓越講究」では、学生は研究メンター（指導教員）によるセミナー指導などを通して研究活動を行い、その成果として修士論文、博士論文を執筆する。一人の研究メンター（指導教員）につき学生数は1～3名程度を想定している。本科目において、博士前期課程では10単位、博士後期課程では8単位を認定する。これは修士論文、博士論文の作成に当たってのセミナー指導に必要な時間、および学生本人が授業時間外に行う学修と研究に要する時間を考慮して設定したものである。

なお、修士論文や博士論文については、中心となる学問分野である数学、数理科学、情報科学、理学、工学、経済学に関するものを基本的には想定しているが、それらを学術基盤としつつ、文系を含む他分野に応用して得られた成果をテーマとした論文とすることも強く推奨するものとする。そうした場合は、マルチメンター制による指導体制を活用し、共創メンターも積極的に論文執筆指導に参画するものとする。

さらに、後述するように **MF** 評価委員会がマルチメンターと連携し、年4回程度学生に研究進捗状況報告書を提出させることで、その状況を常に把握するといった取組みも行う。

なお、海外の大学等で履修した授業科目については、プログラム実施委員会の議を経て、本学位プログラムの修了要件となる単位として認定することができるものとする。

また、留学生の入学後の履修指導については、プログラム担当者や、マルチメンターに加えて理学部等事務部教務課及びプログラム運営の事務的なサポートの役割を担うマス・フォア・イノベーション卓越大学院事務支援室が対応することにより、留学生への履修指導体制が十分に整えられるよう配慮する。

※【資料1】入学から修了までのスケジュール表・【資料2】履修モデル

②秋入学への対応

優秀な学生、特に海外からの留学生を確保するため、秋入学も予定している。

各科目の履修時期、履修の順序が多少変わるが、次のとおり対応することにより教育課程の体系性は確保でき、学修上の問題は生じないほか、新たに開講する科目もないため教員の負担が増大することもない。

- ・博士前期課程：「数学共創基礎 I ～ XX」、「数学共創概論 I ～ X」、「数学トランジション基礎 I ～VI」は特に開講時期は変更せず、通常の新入学の学生と同じ講義を同時に履修する。こうした科目は独立性が高く、履修順序が変わっても「数学力」・「統計力」・「モデリング力」の基礎を体系的に学ぶ上で問題は生じない。一方、「数学共創モデリング」は、新入学の学生には1年次後期（秋期）から2年次前期（春期）に開講するが、秋入学の学生には、1年次春期から2年次秋期の開講となり、通常の開講時期から半年シフトする。こちらは異分野（共創分野）の研究室での共創メンターによる指導であり、半年シフトすることによるデメリットや問題は生じない。また、そういった共創分野を決定するための準備としての講義「数学共創概論I」については、オンデマンド方式による動画講義を準備することで対応するほか、必要に応じてヤングメンターがサポートす

る。

- ・博士後期課程：インターンシップ科目は実施時期を柔軟に変更して実施することが可能であり、問題ない。プレゼンテーション科目や講究科目は、開講時期を半年シフトして実施する。
- ・資格審査・学位審査：すべて審査時期を半年シフトして実施する。

（２）特色ある指導の仕組み

【マルチメンター制度による研究指導】

以下の各メンターから成るマルチメンター制により複数教員等で学生の研究指導体制を構築する。入口から出口まで手厚く学生をサポートする仕組みを通し、主に学生の創造力を養成する。

- 研究メンター（指導教員）：連係協力学府の数学系の教員（研究指導（マル合）教員）。講究科目を通して数学系分野で学生を指導し、学生の数学力を徹底的に養成するとともに、他のメンターを総括する。
- 共創メンター：学生の数学系の主要研究分野とは異なる分野のプログラム担当者である教員。数学共創モデリング、数学創発モデリングを中心に、異分野との共創やイノベーション創発のための教育研究活動を手厚く指導する。
- グローバルメンター：海外研究機関の国際的に実績が認められている著名な研究者。数学系分野もしくは他分野の学術的指導に加え、英語による教育研究活動、国際共創力強化インターンシップ、英語によるコミュニケーション指導を担当する。
- ヤングメンター：学生と同世代の、数学系・情報科学系・経済工学系の優秀なポスドク（学術研究員等）。他のメンターでカバーしきれないきめ細やかなケアを行う。数学共創モデリングと数学創発モデリングを中心にサポートするとともに、各学生の学修や研究の進捗状況を把握する。
- 実務メンター：民間企業や研究機関、あるいは自治体におけるプログラム担当者等。必要に応じて産学・異分野共創力強化インターンシップを通して、産業界等の現場の観点から学生を指導する。

【国際的環境下での研究活動】

本学の戦略的パートナーであるイリノイ大学アーバナ-シャンペーン校（UIUC、米国）やIMIが分室を置くラ・トローブ大学（豪州）と連携し、教育の質保証と教員・学生交流を深化する。UIUCは気象分野や医学分野など諸科学分野との連携を第一線で活発に行っている研究者が豊富であるほか、キャンパス内にあるリサーチパークでのインターンシップも盛んである。多くの学生・教員の相互派遣実績があるラ・トローブ大学は、特に応用数学・統計に強く、農業を初めとする異分野連携にも特徴がある。そうした環境下で学生がグローバルメンターや現地学生と研究活動を行うことで、国際的にもレベルの高い創発力が涵養される。

また、IMIの主導で2014年に設立した国際的産業数学研究ネットワークであるアジア太平洋産業数学コンソーシアム（APCMFI）には、アジア・オセアニア地域の有力な研究機関・研究者が多数参画しており、このようなリソースも活用して学生を海外へ派遣し、言語や文化の異なる国際的環境下で創発力を養成する。

（3）その他の取組

本学位プログラムでは、カリキュラム以外にも、次のような取組を行う。

【スタディグループ】

プログラム担当者と全学年の学生に加え、企業や異分野の研究者、および学部生や他大学からの参加も得て年1回程度実施する。産業界を初めとする社会における様々な現実的テーマの課題解決を目指す全国規模の問題解決型短期研究合宿であり、産学連携シーズ発掘に極めて有効である。

【マス・フォア・イノベーションセミナー】

講演者・テーマ・場所の選定・交渉等、全体の企画から運営、社会への発信まで学生（博士後期課程）が主体的に実施するセミナーである。社会科学系を含む共創分野の問題を積極的に取り上げ、主に共創力の養成を図る。

【マス・フォア・イノベーションカフェ】

学生企画による講演・ポスター発表・交流会を参加者全員の顔が見える規模で定期的に行うもの。数理学部生に加え、共創メンターとヤングメンターの協力のもと、他分野の学部生等の参画を得て、数学力や共創力向上の機会とするとともに、直接的なリクルートメントの機会とする。

（4）修了要件と資格審査

○博士前期課程の修了要件

「数学共創基礎Ⅰ～ⅩⅩ」から4単位、「数学共創モデリング」4単位、「卓越基礎講究」10単位の計18単位に、各連係協力学府の専攻教育科目、トランジション科目、基礎科目のうち4単位を超えて履修する科目、研究メンター（指導教員）が必要と判断する他学府（連係協力学府を除く）の授業科目からの12単位を加えた合計30単位を修得し、プログラム実施委員会がマルチメンターを含むプログラム担当者を構成員として設置するMFF評価委員会が行う修士論文の審査及び最終試験（口頭発表）に

合格することを修了要件とする。なお、修士論文の最終試験は、公開して行うことで、その透明性・客観性を確保するものとする。また、最終的な修了要件の確認は、プログラム実施委員会が行い、公平性を確保する。

○Prelims（博士前期課程修了時の進学資格審査）

学生の口頭発表により、修士論文の学術的な達成度、課題解決マインドの醸成度を評価する。これとコースワークの絶対評価による成績を総合して数学力、統計力、モデリング力、共創力の到達度を判断し、博士後期課程への進学を審査する。審査は MFF 評価委員会が主宰し、マルチメンターを含むプログラム担当者と MFF 外部評価委員から成る MFF 審査委員会(Prelims)が実施する。最終的な合否判定はプログラム実施委員会が行い、公平性を確保する。

○Preliminary Thesis Exam（博士後期課程 2 年次終了時の資格審査）

研究の背景・過程・今後の戦略、数学共創実践に関する口頭発表、提出資料に基づき、MFF、特に創発力の到達度、及び博士論文に至る研究戦略を評価し、博士論文執筆資格を審査する。審査は MFF 評価委員会が主宰し、マルチメンターを含むプログラム担当者に、世界的に著名な外部有識者を加えた MFF 審査委員会(Preliminary Thesis Exam)が総合的に実施する。主査は研究メンター（指導教員）以外の教員が担当する。最終的な合否判定はプログラム実施委員会が行い、公平性を確保する。

○博士後期課程の修了要件

「共創力強化インターンシップ」のうち国際、異分野、産学の 3 種類のインターンシップのいずれか 4 単位、「数学創発モデリング」2 単位、「卓越論報」2 単位、「卓越講究」8 単位の計 16 単位を修得し、プログラム実施委員会の下で行う博士論文の審査及び最終試験（ディフェンス）に合格することを修了要件とする。

MFF 評価委員会において、学生の口頭発表に基づき博士論文の予備審査を行い、学術的観点及び本構想の育成すべき人材像との整合性の観点から、本審査に進む資格の有無を審査する。本審査はプログラム実施委員会が設置する MFF 審査委員会（博士号）が行い、博士論文と公開口頭発表（ディフェンス）により、世界的水準からの学術性と MFF の総合的達成度を審査する。MFF 審査委員会（博士号）は、マルチメンターを含むプログラム担当者と共創分野の世界的な著名研究者から構成し、主査は研究メンター（指導教員）以外が担当する。こうして、当該学生が、本学位プログラムが目指す、他分野研究者と共創してイノベーションを創発する数学モデリング人材としてふさわしいかどうかを、複数の分野の研究者が、透明性・公平性・客観性を保った環境で審査を行う。なお、博士論文の最終試験は、公開して行うことで、その透明性・客観性を確保するものとする。また、最終的な修了要件の確認は、プログラム実施委員会が行い、公平性を確保する。

本学位プログラムの研究指導、学位審査体制の概要を図5に示す。

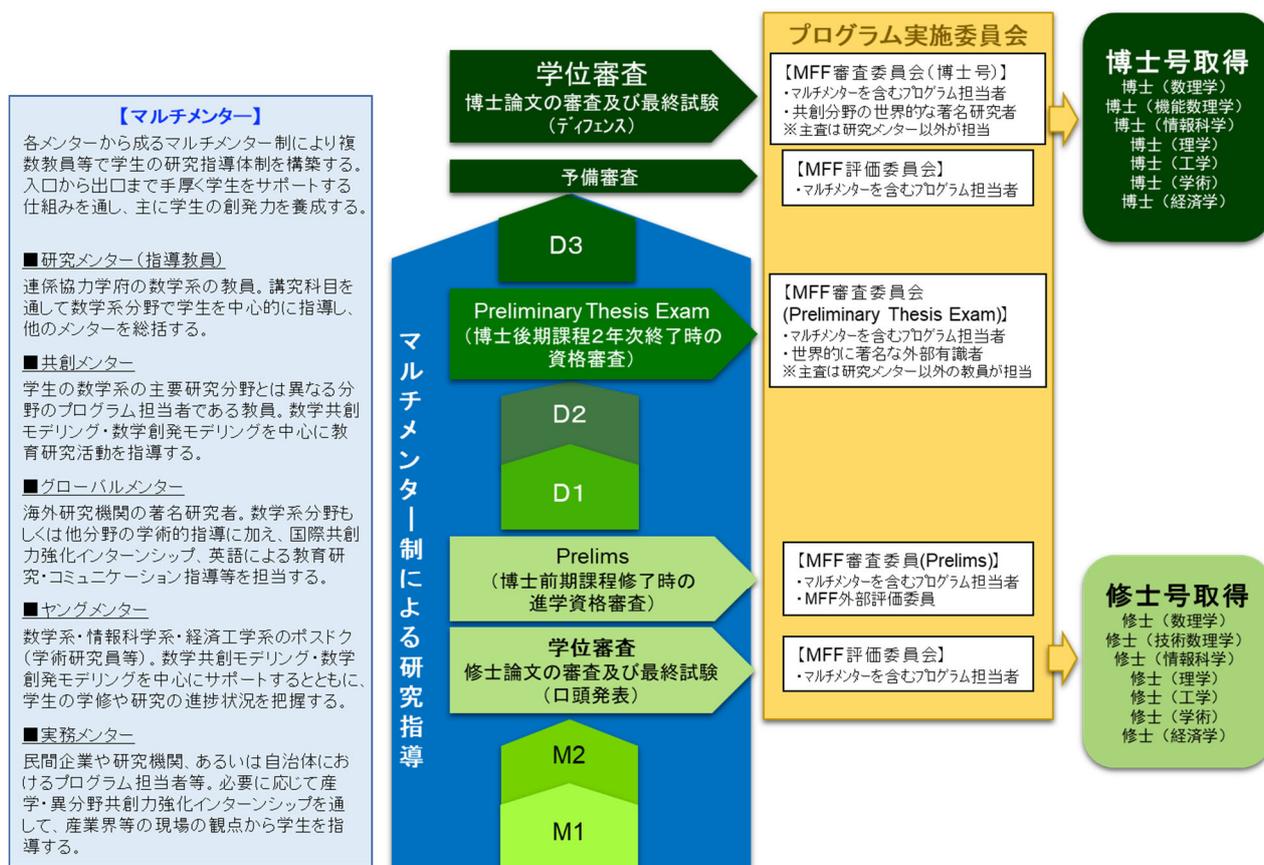


図5：研究指導、学位審査体制

(5) 研究の倫理審査体制

研究実施に当たっての倫理審査については、人を対象とする医学系研究に関する規程を設け、それぞれ研究を開始する前に、各部局に設置された倫理審査委員会の審査を受け、許可されたものについて研究を実施することとしている。

また、研究活動上の不正行為(捏造、改ざん、盗用等)を防止し、適正な研究活動を推進することを目的として、「国立大学法人九州大学の適正な研究活動に関する規程」を制定し、本学における研究者の研究活動上の責務、研究倫理教育の実施、不正行為の防止、不正行為に関する申立て等への対応、不正行為が行われた場合の措置等を規定し、研究不正等に全学的に対応する体制を整備している。

具体的には、同規程に基づき、不正行為に関する申立て等に対応するための「研究不正申立窓口」、申立て内容の合理性及び調査可能性等についての予備調査と予備調査後の本調査において不正行為が行われたか否かの判定を行う「九州大学適正な研究活動推進委員会」、本調査を行うための「研究不正調査部会」が設置されている。

加えて、研究活動の不正行為を事前に防止するための「研究倫理教育の実施に関する要項」も定めており、各部長を研究倫理教育責任者とし、研究者等に対して全学的に共通の教材による e-learning システムを活用した研究倫理教育を実施している。本研究倫理教育では、受講後に実施するテストで一定の点数を超えた場合のみ受講を修了したものとし、研究者に求められる倫理規範を習得させる体制を整

備している。

※【資料3】研究の倫理審査に関する規程

5. 基礎となる学部との関係

数理学府においては理学部数学科、システム情報科学府においては工学部電気情報工学科、理学部物理学科情報理学コース、経済学府経済工学専攻においては経済学部経済工学科との間で、分野でのつながりが比較的強い。本学位プログラムの担当教員の多くは、それらの学部学科の担当ともなっているほか、本学位プログラムへの入学者の多くはそれらの学部学科の出身学生となることが想定される。

6. 入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

求める学生像	<p>本学位プログラム博士前期課程では、数学、情報科学、経済学などに学問的基盤を持つ学生で、学士課程レベルでの数学の基礎学力が備わり、さらに高度で広範な数学の知識獲得や数学を用いた自らの研究の推進に意欲をもつ学生を求める。特に、高度に発達した数学理論の探究や数学モデリングを用いた応用研究に興味をいだくとともに、異分野や社会における課題にも挑戦し、新たな知見を獲得しようとする意欲のある学生を歓迎する。</p> <p>なお、「学士課程レベルでの数学の基礎学力」とは、理系の学生を対象として教育が行われる「微分積分学」、「線形代数学」を初めとする、諸科学分野を学習する上で必須となる事項に関する基礎的な学術基盤や学力を指す。通常、理学部数学科等において身に付ける、現代数学の概念の理解を含む「数学力」「統計力」を習得していることを基本的に入学のための要件とするが、習得されていないときには、入学後にトランジション科目を課す。</p> <p>本学位プログラム博士後期課程では、数学、情報科学、経済学などに学問的基盤を持つ学生で、大学院レベルでの数学の学力および実践的応用力が備わり、さらに高度で広範な数学の知識獲得や数学を用いた自らの研究の推進に意欲をもつ学生を求める。特に、高度に発達した数学理論の探究・構築や数学モデリングを用いた実践的応用の経験を持つとともに、異分野や社会における高度な課題にも挑戦し、新たな知見を獲得しようとする意欲のある学生を歓迎する。</p>
---------------	---

入学者選抜方法	<p>(博士前期課程、博士後期課程)</p> <p>基礎的な学力及び学問的な基盤を確認するために、原則として志望者には、数理学府、システム情報科学府、経済学府、等の既設専攻の入学者選抜を受験することを求める。既設専攻において合格者を決定した後、本学位プログラムを志望する者に対して、当学位プログラムへの適性を判断するために、出願理由書、推薦書等による書類審査及び口頭試問による選抜を行う。</p> <p>なお、社会人学生、外国人留学生も受け入れるが、上記選抜方針は変わらない。また、外国人留学生の日本語もしくは英語能力については、口頭試問において確認する。</p>
----------------	--

(2) 募集人員

博士前期課程1年次は、数学系7名、情報系3名、経済系1名、他分野1名の計12名程度の受入れを基本とする。

また、博士後期課程1年次は、博士前期課程からの進学者12名に他大学等からの入学者2名を加えた計14名の受入れを基本とする。

なお、社会人や外国人留学生については「うち数」として取り扱い、別枠とはしない。また、秋入学の定員は設定せず、若干名の募集とする。

7. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織編成の考え方

本学位プログラムで育成するMFIプロフェッショナルの基盤となるのは、国際的に優れた数学力および統計力である。そのため、まず学術基盤となる数学及び統計学を専門とする教員を多く配置する。

本学位プログラムの学問分野の中心となるのは、数学、数理科学、および情報科学、理学、工学、経済学である。数学、数理科学については、大学院数理学研究院、マス・フォア・インダストリ研究所の教員が中心となって担う体制のもと実施する。情報科学、理学、工学については、大学院システム情報科学研究院、情報基盤研究開発センターの教員を中心とし、経済学については大学院経済学研究院の教員を中心とする体制を整備する。さらに、情報基盤研究開発センター附属汎オミクス計測・計算科学センターの教員が中心となり、数学、数理科学、情報科学および他分野との融合研究を行う体制を取ることとしている。こうした教員は、研究メンター（指導教員）として、日常的なセミナーでの指導や、論文執筆・研究発表指導などを通して学生の数学力養成に本質的な役割を果たすほか、様々な授業科目を通して学生の数学力・統計力・モデリング力の養成にあたる。さらに、プログラム実施委員会への参画を通して、学生の評価や本学位プログラムの運営にあたる。

さらに、組織や分野の垣根を越え、数学モデリング力を活かして各分野で共創してイノベーションを創発する人材を育成するため、学内他分野の教員も参画する。こうした教員は、主に共創メンターとして学生指導にあたるほか、数学共創モデリング、数学創発モデリング、あるいは授業科目を通して学生

の共創力養成のための教育にあたる。

また、海外の大学、国内の研究機関や企業、あるいは自治体からも統計学や数学モデリングの研究実績やIMIと連携実績のあるプログラム担当者を配し、本学位プログラムで行うインターンシップなどの活動が円滑に実施できる体制を構築する。

研究科等連係課程に移行することで、数学・数理科学を学術基盤としながら、こうした異分野融合の研究教育体制が可能になる意義は極めて大きい。

なお、本学位プログラムでの教育上主要となる授業科目には、専任の教授や准教授を中心に配置している。

(2) 教員組織編成の特色

本学位プログラムでは、上述のように、組織や分野の垣根を越え、数学モデリング力を活かして各分野で共創し、イノベーションを創発する人材を育成するため、教員組織は、数学、数理科学や情報科学、理学、工学、経済学を専門分野とする教員だけではなく、政策立案、ビジネス、経営、法律、医療、医学、感性、脳科学、生物、物理、計算科学、デザイン、気候、農業、宇宙、エネルギーなど、様々な分野の学内教員、さらには学外の多様な人材も参画して編成している。

特に、インターンシップ科目等の数学共創実践科目群への対応のため、実務経験の豊富な教員等を積極的に活用する。これにより、組織や分野の垣根を越えて各分野や産業界で共創することを、学生に効果的に実践させることが可能となり、教育効果を高めることができる。このような教員の割合は本学位プログラムの教員組織全体において高くはないものの、多様な人材を配置している点で特長がある。

本学位プログラムの大きな特色の一つであるマルチメンター制による指導体制は、こうした様々な分野の学内教員や、国際的実績のある学外のプログラム担当者、そして若手の優秀なポスドク等により成り立っており、正規課程としての教育研究指導体制として確実に卓越した学生の育成を推進するものである。

(3) 教員の年齢構成

本学位プログラムは、国の「研究科等連係課程実施基本組織」により設置するものであり、専任教員としてこの学位プログラムに参画する教員は、数理学府、システム情報科学府、経済学府のいずれかの専攻の専任教員となっている。

開設年度（2022年4月1日）における専任教員は博士前期課程46名（教授26名、准教授15名、講師1名、助教4名）、博士後期課程45名（教授25名、准教授15名、講師1名、助教4名）である。年齢構成については、博士前期課程において、30代が9名、40代が16名、50代が14名、60代が7名、博士後期課程において、30代が9名、40代が16名、50代が13名、60代が7名となっており、教育研究水準の維持及び活性化にふさわしい構成となっている。

なお、博士前期課程の完成年度までに1名、博士後期課程の完成年度までに2名の教員が定年により退職する予定であるが、他の専任教員で十分に対応可能であるため、教育研究上の支障はない。

※【資料4】国立大学法人九州大学教員の定年に関する規程

8. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備状況

本学位プログラムの教育・研究を支える校地は、九州大学伊都キャンパスである。伊都キャンパスには、図書館（中央図書館と理系図書館）、キャンパスライフ・健康支援センター（健康相談室、学生相談室）、外国人留学生・研究者サポートセンター、食堂・売店等の福利厚生施設が充実している。また、伊都キャンパス内や至近の場所には、学生寮（ドミトリー1、ドミトリー2、ドミトリー3、伊都協奏館）が設けられている。

このほか伊都キャンパスには、多目的グラウンド、総合体育館、室内プール、テニスコート、課外活動施設（サークル棟）が整備されている。

学生が休息するスペースとしては、課外活動施設（サークル棟）、食堂、カフェテリアの他、各建物には休憩スペースが整備されている。

(2) 校舎等施設の整備状況

数理学府、システム情報科学府、経済学府は、それぞれに対応する研究棟を伊都キャンパス内に有しており、各研究棟において、講義室、演習室（セミナー室）、教員の研究室、大学院生の自習室を備えている。本学位プログラムにおいてはこれらの既設専攻の施設を利用することとなる。

なお、講義室については、時間割上の未使用教室を活用するなど、関係協力学府の教育研究に支障を及ぼすことがないように調整し、確保する。

また、演習室（セミナー室）、教員の研究室、大学院生の自習室については、既設専攻において次のような形で整備されている。

○演習室（セミナー室）、教員の研究室

教員と学生のコミュニケーションが日常的にスムーズにとれるよう、教員の研究室に演習室（セミナー室）を隣接させている。

○大学院生の自習室

学生が日常的な学修・研究活動を行うスペースとして大学院生室を整備し、その中で各学生が自主的活動を行うために設備を整えている。

※【資料5】大学院生室内の見取図（一例）

既設専攻の施設のほか、本学位プログラム固有の施設として、主にヤングメンターの活動スペースとなる研究室（2室）、学生用スペース（2室）、管理部門（2室：事務支援室、会議室）を確保している。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備

九州大学附属図書館の全蔵書は、図書約4,200,000冊、学術雑誌約77,000種、アクセス可能な電子ブック約530,000タイトル、アクセス可能な電子ジャーナル約125,000タイトルを所蔵し、各種データベ

ースサービスを提供している。データベースや電子ジャーナルは、学外からもアクセス可能となっている。そのうち、中央図書館には、図書約 2,460,000 冊、学術雑誌約 38,000 種、理系図書館には、図書約 1,000,000 冊、学術雑誌約 24,000 種が収蔵されている。長年にわたる計画的な図書資料の収集・整備により、本学位プログラムの教育研究領域に関する図書・学術雑誌類は充実している状況にあり、現在も中央図書館では年間で図書約 21,000 冊、学術雑誌約 4,700 種、理系図書館では、年間で図書約 7,500 冊、学術雑誌約 1,600 種冊を受け入れる等、更なる充実を図っている。

9. 管理運営

(1) ガバナンスの基本方針

本学では、平成 29 年 11 月に、新たな教育課程の構築・改善や教育の質向上に向けて、全学が一体となって改革を推進する教学マネジメント組織として、総長のリーダーシップの下、「教育改革推進本部」を設置した。これは、いわば本学の「教育改革の司令塔」と位置付けられるものであり、本部長を総長が務め、その強力なコミットメントの下で、大学院教育改革指針の策定、ダ・ヴィンチプログラムの枠組みの構築などの大学院教育改革を含む全学の教育改革を主導している。

本学位プログラムは、複数学府が参画して分野横断型人材を育成する本学独自のダ・ヴィンチプログラムの先導モデルとされており、教育改革推進本部の総括の下に、全学的な管理運営体制を構築する【図 6 参照】。一方で、総長が任命する学府長をプログラム責任者とし、プログラム責任者のガバナンスにより本学位プログラムの管理運営を行う体制を整備している。

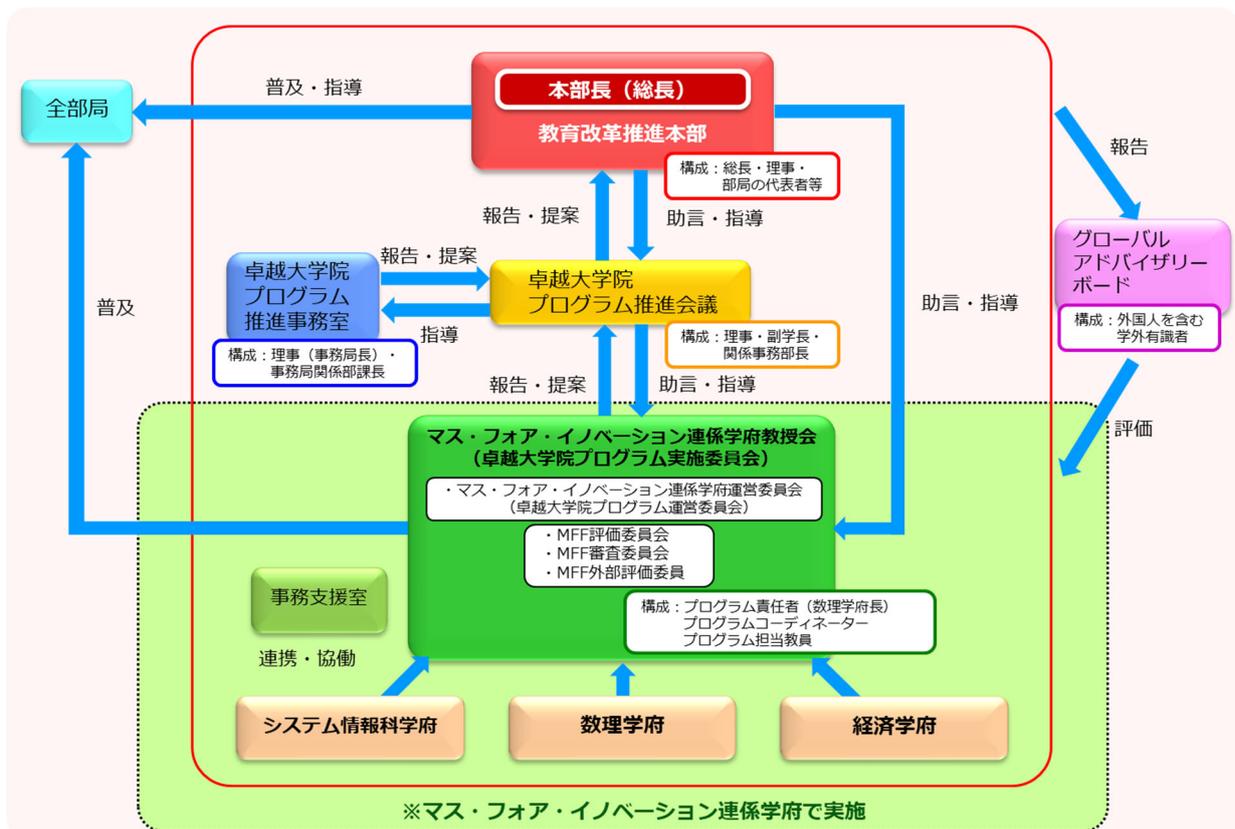


図 6：全学的な管理運営体制

(2) 教授会、運営委員会

マス・フォア・イノベーション連係学府で実施する『卓越大学院プログラム』の実質的な管理運営は、卓越大学院プログラム責任者である数理学府長を委員長とする「卓越大学院プログラム実施委員会」(以下、「プログラム実施委員会」)が中心となつて行う。プログラム実施委員会は、プログラム責任者、プログラムコーディネーター、及び数理学府、システム情報科学府、経済学府を中心とするプログラム担当者により構成する。

プログラム実施委員会は、マス・フォア・イノベーション連係学府教授会をもって充て、原則月1回開催しプログラムの実施、管理、改善、報告、広報などの事項について審議・決定する。教授会での決定事項のうち重要な事項は、数理学府、システム情報科学府、経済学府の教授会に適宜報告するものとする。

また、より機動的な管理運営体制を構築するため、卓越大学院プログラムコーディネーターを委員長とする「卓越大学院プログラム運営委員会」(以下、「プログラム運営委員会」)を設置し、プログラム責任者、プログラムコーディネーター、及び数理学府、システム情報科学府、経済学府の教務担当教員などを中心に構成する。

プログラム運営委員会は、マス・フォア・イノベーション連係学府運営委員会をもって充てる。

(3) 審査・試験に係る委員会

プログラム実施委員会の下に、次のとおり「MFF 評価委員会」と、各審査・試験に応じた「MFF 審査委員会」を設置する。

【MFF 評価委員会】

構成員は、プログラム実施委員会の構成員を中心とするプログラム担当者とする。マルチメンターと連携し、資格試験や学位審査に当たるとともに、年4回程度提出の研究進捗状況報告書により学生の状況を常に把握する。これらを踏まえ必要な助言を与え、学生自らの主体的・独創的研究方針の策定と推進を促し、研究活動の到達度を厳格に確認・審査して質を保証する。

【MFF 審査委員会】

・MFF 審査委員会(Prelims)

マルチメンターを含むプログラム担当者とMFF外部評価委員により構成し、Prelimsの審査を行う。

・MFF 審査委員会(Preliminary Thesis Exam)

マルチメンターを含むプログラム担当者に、世界的に著名な外部有識者を加えた構成により、Preliminary Thesis Examの審査を行う。

・MFF 審査委員会(博士号)

マルチメンターを含むプログラム担当者と共創分野の世界的な著名研究者から構成し、博士号の本審査を行う。

【MFF 外部評価委員】

Prelimsなど、学生の資格試験、学位の審査を客観的観点から行う。学生の専門分野における著名研究者から選任する。

(4) 事務支援室

本学位プログラムの運営に関する事務的なサポートを行うため、理学部等事務部に「マス・フォア・イノベーション卓越大学院事務支援室」（以下「事務支援室」）を置く。事務支援室は、理学部等事務部各課の協力を得て、本学位プログラム運営のサポートや学生の支援に関する事務、その他本学位プログラム全般の事務支援を行う。

(5) 人事給与システム

九州大学では、魅力ある年俸制給与体系とメリハリある業績評価体制の一体的構築により、組織の活性化及び多様な人材を確保することを目的に、平成26年10月1日から教員の年俸制を導入し、年俸制の導入促進に取り組むとともに、本学独自の取組である「大学改革活性化制度^{*}」を活用した多様な人事を促進し、教員の流動性の向上と教育研究の活性化を図っている。

※総長の強力なリーダーシップによる重点分野への人材再配置・組織活性化のための本学独自の取組。各部局から人事ポイントを抛出させ、重点研究分野等に配分することにより、大学全体の人材配置と組織について不断の改革を自律的に行っている。

(6) 教員のエフォート管理

本学位プログラムにおいて、教員は、講究科目の指導を含む研究指導、授業担当、本学位プログラム全体の運営にあたる。さらに、担当学府等における研究指導や授業担当を行う教員もいる。これらの負担の調整を図るために、まず、プログラム実施委員会が、教員のエフォートを常に管理し、必要に応じて本学位プログラム内及び数理学府、システム情報科学府、経済学府を中心とする学府との調整を図る。

10. 自己点検・評価

(1) 全学の自己点検・評価

全学的な自己点検・評価について、九州大学学則第2条において、「教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表すること、及び「自己点検・評価及び第三者評価等多様な評価の結果を本学の目標・計画に反映させ、不断の改革に努める」ことを定めており、大学評価に関する重要事項を審議する組織として、大学評価委員会を設置している。

大学評価委員会は、①本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況に係る評価及び内部質保証、②国立大学法人評価、③認証評価、④各部局の評価活動の総括、⑤大学評価に係る報告書の作成及び公表、⑥教員の教育・研究等活動の評価、⑦教員活動進捗・報告システム(Q-RADeRS)の運

用等に関することを任務とし、総長が指名する理事を委員長とし、理事、副学長及び副理事、各部署の長、事務局長で構成している。

全教員を対象とする教員活動評価も実施しており、教員活動評価では、①教員自身の教育研究活動の把握と改善向上と、②部局の将来構想における諸施策への活用を目的に、全学での基本的枠組みを設定し、部局の特性に配慮した実施体制や実施方法を定め、部局ごとに実施している。

また、教育・研究活動の継続的な改善を行っていくためには、改善に役立つための評価活動の質の向上を進めると同時に、効率的・効果的な評価体制の構築も必要であるため、本学では、多様かつ大量の必要データを処理・管理する情報処理システムの開発・運用を行っている。①大学経営や将来計画に関する基礎資料を収集、②自己点検・評価及び第三者評価への基礎資料、③教員が教員活動評価のために毎年度提出する報告書への活用、④国際交流や社会貢献推進のための情報公開への活用、⑤学内外からの教育研究活動に関する調査への対応の5つを目的に掲げ運用している「教員活動進捗・報告システム(Q-RADeRS)」をはじめ、中期目標・計画の達成を念頭に置きながら、年度計画の自己点検・評価や根拠資料の収集・保管、さらには次年度計画の立案までの一連の業務をサポートする「中期目標・中期計画進捗管理システム」等を運用し、全学的な評価活動の質の向上と、効率的・効果的な評価体制の構築を図っている。

さらに、平成28(2016)年4月には、学内の様々なデータを一元的に収集、管理し、組織としての管理・運営機能の強化を図ることを目的に、これまで本学における点検・評価活動に対する支援や、学内外への情報の提供等の業務を担っていた大学評価情報室を、インスティテューショナル・リサーチ(IR)室として発展的に改組し、現状把握や改善事項への対応を迅速に行える体制の強化を図っている。

本学では、国立大学法人評価、大学機関別認証評価等の評価において、上記の組織体制のもと点検・評価を行うとともに、評価結果の分析を行い、課題や改善点を整理した上で学内に対応を促す等、評価を適切に改善につなげる取組を推進している。

(2) 本学位プログラムの自己点検・評価

プログラム実施委員会を中心に、全学的な自己点検・評価の方針を踏まえた上で、学生の受入れに関する事項、教育内容及び方法に関する事項、学習成果に関する事項等について、毎年度点検を行い、次年度の改善点として反映させる。これらの評価結果については、卓越大学院プログラム推進会議に報告するとともに、必要に応じて教育改革推進本部の助言・指導を受け、総長のリーダーシップによる全学の運営体制の中でPDCAサイクルを実現することとする。

また、全学的運営体制の下、1～2年に一度、外国人や企業関係者を含む学外有識者により構成される「グローバルアドバイザーボード」による外部評価を実施する。

1 1. 情報の公表

(1) 大学としての情報の公表

九州大学では、インターネット上に大学のホームページを開設し、大学としての基本方針である「教育憲章」や「学術憲章」をはじめ、中期目標・中期計画等今後の大学の取組に関する情報を発信するとともに、カリキュラム、カリキュラム・マップ、シラバス、授業科目のナンバリング、定員、学生数、教員数や学内規則等、大学の基本情報を公開している。具体的な公表項目の内容と、公開しているホームページのアドレスは以下のとおりである。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること
- ② 教育研究上の基本組織に関すること
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ④ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- ⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

上記①～⑨ <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/education/>

⑩その他

- a. 中期目標・中期計画、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等

<https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/university-evaluation>

- b. 学内規則

<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/information/rule/rulebook/>

- c. 学部・学府等の設置関係の書類

<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/establish>

大学のホームページにおける公表に加え、本学位プログラムで開設するホームページにおいても本学位プログラムに関する情報を公表する。

12. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

九州大学では、教育データに基づく教育改革のPDCAサイクルを確立させ、各学府等との連携により、全学的な教育改革を推進し、教育の国際的な通用性を高めることを目的とする全学組織として「教育改革推進本部」を設置している。同本部では、全学的なFD活動を実施するとともに、各部局と連携して、各部局のFD活動の支援を恒常的に行っている。

全学的なFD活動では、全学的な教育課題等に関する内容を中心に、部局のFD活動では、部局ごとの特性に応じた教育課題を取り上げて実施しており、FDを企画する際には、教職員を対象としたアンケートや、学生を対象とした授業評価アンケートの結果を活用している。また、新採用となった教員等を対象に本学の将来の展望等について理解を深め、教育者・研究者としての資質と大学の構成員としての自覚を高める初任教員研修をはじめ、学習支援システム講習会、メンタルヘルス講習会、電子教材開発・著作権講習会、バリアフリー講習会等、教育活動の全般にわたるFD活動を実施している。これらの活動を通じて全学的な教育課題等に関する啓発や、課題の共有が図られ、カリキュラム、シラバス、教育手法、成績評価方法等の改善につながっている。

また、FD活動以外にも、全学的な職務関連研修を実施するほか、大学職員に必要な知識・技能を修得させ、必要な能力及び資質を向上させるために、以下の取組を実施している。

- ・コンプライアンスを確保するため、本学の体制・取組、非違行為の概要等を学び、コンプライアンスの重要性の認識と理解を深める「職員コンプライアンス研修」
- ・研究費不正を防止するための「研究費の運営・管理に係るコンプライアンス教育」(eラーニング)
- ・近年の不正競争防止法の諸改正等を受け、秘密情報の漏えい等を事前に防止し、適正な秘密管理を図る「大学における営業秘密管理eラーニング研修」
- ・国の方針や大学への要請等について理解を深め、職員個人の資質向上はもとより、組織として業務を円滑に遂行するための職員間における連帯意識の醸成を図る「学務事務研修」
- ・ビジネスライティングの基本的なルールと相手や状況に合わせた表現方法を学修し、留学生及び外国人研究者への対応能力及び海外の大学等とのEメールや文書による調整能力を涵養する「職員英語ビジネスライティング研修」等

本学位プログラムとしても、大学院教育改革の先導的役割を担っていることを踏まえ、学位プログラム実施の効果等を全学的に波及させることを目的として、積極的にFD活動に取り組む。

資料目次

【資料1】入学から修了までのスケジュール表・・・・・・・・・・ 1

【資料2】履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

【資料3】研究の倫理審査に関する規程・・・・・・・・・・・・ 11

※添付省略

九州大学人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程

九州大学遺伝子治療等臨床研究に関する規程

国立大学法人九州大学の適正な研究活動に関する規程

研究倫理教育の実施に関する要項

【資料4】国立大学法人九州大学教員の定年に関する規程・・・・・・・・ 27

※添付省略

【資料5】大学院生室内の見取図（一例）・・・・・・・・・・・・ 28

※添付省略

入学から修了までのスケジュール
(マス・フォア・イノベーション関係学府・博士前期課程)

1年次	項目	指導内容	プログラム実施委員会
4月	履修ガイダンス	履修登録 指導教員申請	履修ガイダンス 指導教員の決定
	履修計画検討	指導教員、ヤングメンターによる履修指導	
	研究テーマの検討	研究計画指導	
7月	共創研究テーマの検討	研究計画指導	共創メンターの決定
10月	共創研究開始	共創研究のテーマに基づいた研究指導	
10月	履修計画検討	指導教員、ヤングメンターによる履修指導	
2年次	項目	指導内容	プログラム実施委員会
4月	修士論文の研究開始	各自の研究テーマに基づいた研究指導	
4月	履修計画検討	指導教員、ヤングメンターによる履修指導	
10月	履修計画検討	指導教員、ヤングメンターによる履修指導	
10月	修士論文作成	論文執筆指導	
1月	修士論文提出		
2月	修士論文発表会	論文審査	MFF評価委員会
2月	合否判定 Prelims		MFF審査委員会(Prelims)による合否判定 修士号の学位名称の決定 修士学位授与の判定
3月	博士前期課程修了 学位取得		

入学から修了までのスケジュール
(マス・フォア・イノベーション連係学府・博士後期課程)

1年次	項目	指導内容	プログラム実施委員会
4月	履修ガイダンス	履修登録 指導教員申請	履修ガイダンス 指導教員の決定
4月	研究テーマの検討	研究計画指導	
4月	創発研究テーマの検討	研究計画指導	
4月	履修計画検討	指導教員、ヤングメンターによる履修指導	
4月	博士論文の研究開始	各自の研究テーマに基づいた研究指導	
10月	創発研究開始	創発研究のテーマに基づいた研究指導	
2年次	項目	指導内容	プログラム実施委員会
4月	研究継続	研究指導	
4月	履修計画検討	履修指導	
2月	2年次中間報告 (Preliminary Thesis Exam)	研究発表の指導	MFF審査委員会 (Preliminary Thesis Exam) による合否判定
3年次	項目	指導内容	プログラム実施委員会
4月	研究継続	研究指導	
10月	博士學位論文審査願の提出		博士學位論文審査願書の受理 MFF審査委員会 (博士号) 設置
11月	予備審査用の學位論文等提出		
12月	予備審査会	予備審査 審査結果報告	予備審査による論文受理の可否判定 (MFF評価委員会)
1月	學位論文等提出		
1月	學位論文審査会 (公開)	論文審査 審査結果報告	MFF審査委員会 (博士号)
3月	合否判定		MFF審査委員会 (博士号) による合否判定 博士号の學位名称の決定 修士學位授与の判定
3月	博士後期課程修了 學位取得		

		基礎科目 トランジション科目	インターンシップ科目	アプレベンション科目	講究科目	専攻教育科目		
博士前期課程	1年次	前期 ①・②	数学共創基礎Ⅰ(1) 数学共創基礎Ⅱ(1) 数学共創基礎Ⅲ(1) 数学共創基礎Ⅳ(1) 数学共創概論Ⅰ(2)*			関数解析大意(2) アクチュアリ数理(2)		
		後期 ③・④	数学共創基礎Ⅴ(1)* 数学共創基礎Ⅵ(1)* 数学共創概論Ⅱ(2)*	数学共創モデリング(4)		卓越基礎講究(10)	確率論大意(2) 確率論基礎・演習(4)	
	2年次	前期 ①・②						表現論大意(2)
		後期 ③・④						
	博士前期修了要件 単位数【30】		4 数学共創基礎Ⅰ～Ⅵ含む	4		10	12 基礎科目(4単位を超えて履修する科目*)含む	
	修得単位【36】		4	4		10	18	
博士後期課程	1年次	前期 ①・②		共創力強化 インターンシップ (国際/異分野/産学) (4)		卓越講究(8)		
		後期 ③・④						
	2年次	前期 ①・②		数学創発モデリング(2)				
		後期 ③・④			卓越論報(2)			
	3年次	前期 ①・②						
		後期 ③・④						
	博士後期修了要件 単位数【16】		—	6	2		8	—
	修得単位【16】		—	6	2		8	—

		基礎科目 トランジション科目	インターンシップ科目	プレゼンテーション科目	講究科目	専攻教育科目	
博士前期課程	1 年次	前期 ①・②	数学共創基礎 I (1) 数学共創基礎 II (1) 数学共創基礎 III (1) 数学共創基礎 IV (1) 数学共創概論 I (2)*			数理科学 I (2) 最適化理論基礎・演習 (4) 計算数理学 I (2)	
		後期 ③・④	数学共創基礎 V (1)* 数学共創基礎 VI (1)* 数学共創概論 II (2)*	数学共創モデリング (4)		卓越基礎講究 (10)	統計数理学大意 (2)
	2 年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④					
	博士前期修了要件 単位数【30】		4 数学共創基礎 I～XX含む	4		10	12 基礎科目（4単位を超えて履修する科目*）含む
	修得単位【36】		4	4		10	18
博士後期課程	1 年次	前期 ①・②		共創力強化 インターンシップ (国際/異分野/産学) (4)		卓越講究 (8)	
		後期 ③・④					
	2 年次	前期 ①・②		数学創発モデリング (2)		卓越講究 (8)	
		後期 ③・④			卓越論報 (2)		
	3 年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④					
	博士後期修了要件 単位数【16】		—	6	2	8	—
修得単位【16】		—	6	2	8	—	

		基礎科目 トランジション科目	インターンシップ科目	アレベルンション科目	講究科目	専攻教育科目		
博士 前期課程	1 年次	前期 ①・②	数学共創基礎Ⅰ(1) 数学共創基礎Ⅱ(1) 数学共創概論Ⅰ(2)* 数学トランジション基礎Ⅰ(2)**			コンピュータシステム・ アーキテクチャ特論(2) プログラム設計論特論(2)		
		後期 ③・④	数学共創基礎Ⅴ(1) 数学共創基礎Ⅵ(1)	数学共創モデリング(4)		卓越基礎講究(10)	情報ネットワーク特論(2) 量子計算機科学技術特論Ⅰ(1) 量子計算機科学技術特論Ⅱ(1)	
	2 年次	前期 ①・②						
		後期 ③・④						
	博士前期修了要件 単位数【30】		4 数学共創基礎Ⅰ～Ⅹ含む	4		10	12 基礎科目(4単位を超えて履修する科目*)、 トランジション科目**含む	
修得単位【30】		4	4		10	12		
博士 後期課程	1 年次	前期 ①・②		産学共創力強化 インターンシップ (4)		卓越講究(8)		
		後期 ③・④						
	2 年次	前期 ①・②		数学創発モデリング(2)				
		後期 ③・④			卓越論報(2)			
	3 年次	前期 ①・②						
		後期 ③・④						
	博士後期修了要件 単位数【16】		—	6	2		8	—
修得単位【16】		—	6	2	8	—		

情報アーキテクチャ・セキュリティコースを想定

		基礎科目 トランジション科目	インターンシップ科目	プレゼンテーション科目	講究科目	専攻教育科目	
博士前期課程	1年次	前期 ①・②	数学共創基礎 I (1) 数学共創基礎 II (1) 数学共創概論 I (2)* 数学トランジション基礎I (2)**			情報論的学習理論I (1) 情報論的学習理論II (1)	
		後期 ③・④		数学共創モデリング (4)	卓越基礎講究 (10)	グラフ理論・組み合わせ論I (1) グラフ理論・組み合わせ論II (1) 機械学習特論I (1) 機械学習特論II (1)	
	2年次	前期 ①・②	数学共創基礎 III (1) 数学共創基礎 IV (1)				
		後期 ③・④					
	博士前期修了要件 単位数【30】		4 数学共創基礎 I ~ XX含む	4		10	12 基礎科目 (4単位を超えて履修する科目*)、 トランジション科目**含む
	修得単位【30】		4	4		10	12
博士後期課程	1年次	前期 ①・②	国際共創力強化 インターンシップ (4)		卓越講究 (8)		
		後期 ③・④					
	2年次	前期 ①・②		数学創発モデリング (2)	卓越論報 (2)		
		後期 ③・④					
	3年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④					
博士後期修了要件 単位数【16】		—	6	2	8	—	
修得単位【16】		—	6	2	8	—	

データサイエンスコースを想定

		基礎科目 トランジション科目	インターンシップ科目	アディンション科目	講究科目	専攻教育科目	
博士前期課程	1年次	前期 ①・②	数学共創基礎Ⅰ(1) 数学共創基礎Ⅱ(1) 数学共創概論Ⅰ(2)* 数学トランジション基礎Ⅰ(2)*			バイオ電子工学特論Ⅰ(1) バイオ電子工学特論Ⅱ(1) ナノプロセス工学特論Ⅰ(1) ナノプロセス工学特論Ⅱ(1) 光・量子デバイス基礎論Ⅰ(1) 光・量子デバイス基礎論Ⅱ(1)	
		後期 ③・④	数学共創基礎Ⅴ(1) 数学共創基礎Ⅵ(1)	数学共創モデリング(4)		卓越基礎講究(10)	LSIデバイス物理特論Ⅰ(1) LSIデバイス物理特論Ⅱ(1)
	2年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④					
	博士前期修了要件 単位数【30】		4 数学共創基礎Ⅰ～ⅩⅩ含む	4		10	12 基礎科目（4単位を超えて履修する科目*）、 トランジション科目**含む
	修得単位【30】		4	4		10	12
博士後期課程	1年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④		産学共創力強化 インターンシップ (4)			
	2年次	前期 ①・②			数学開発モデリング(2)		
		後期 ③・④				卓越論報(2)	卓越講究(8)
	3年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④					
博士後期修了要件 単位数【16】		—	6	2	8	—	
修得単位【16】		—	6	2	8	—	

情報デバイス・システムコースを想定

		基礎科目 トランジション科目	インターシップ科目	プレゼンテーション科目	講究科目	専攻教育科目	
博士 前期課程	1 年次	前期 ①・②	数学共創基礎 I (1) 数学共創基礎 II (1) 数学共創概論 I (2)* 数学トランジション基礎I (2)**			ロボト制御系設計特論I (1) ロボト制御系設計特論II (1) マルチエージェントシステム基礎I (1) マルチエージェントシステム基礎II (1)	
		後期 ③・④	数学共創基礎 V (1) 数学共創基礎 VI (1)	数学共創モデリング (4)		卓越基礎講究 (10)	凸最適化に基づく制御系設計理論I (1) 凸最適化に基づく制御系設計理論II (1)
	2 年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④					
	博士前期修了要件 単位数【30】		4 数学共創基礎 I ~ XX 含む	4		10	12 基礎科目（4単位を超えて履修する科目）、 トランジション科目**含む
	修得単位【30】		4	4		10	12
博士 後期課程	1 年次	前期 ①・②	異分野共創力強化 インターンシップ (4)			卓越講究 (8)	
		後期 ③・④					
	2 年次	前期 ①・②	数学創発モデリング (2)		卓越論報 (2)		
		後期 ③・④					
	3 年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④					
博士後期修了要件 単位数【16】		—	6	2	8	—	
修得単位【16】		—	6	2	8	—	

エネルギーデバイス・システムコースを想定

		基礎科目 トランジション科目	インターンシップ科目	プレゼンテーション科目	講究科目	専攻教育科目	
博士 前期課程	1 年次	前期 ①・②	数学共創基礎Ⅰ(1) 数学共創基礎Ⅱ(1) 数学共創概論Ⅰ(2)* 数学トランジション基礎Ⅰ(2)**			経済理論Ⅱ(2) 経済数学特研Ⅰ(2)	
		後期 ③・④	数学共創基礎Ⅴ(1) 数学共創基礎Ⅵ(1)	数学共創モデリング(4)		卓越基礎講究(10)	計量分析Ⅰ(2) 計量分析Ⅱ(2) 経済理論Ⅰ(2)
	2 年次	前期 ①・②	数学共創基礎Ⅲ(1)* 数学共創基礎Ⅳ(1)*				計量分析Ⅲ(2) 経済理論Ⅲ(2) マクロ数量分析特研Ⅰ(2)
		後期 ③・④					
	博士前期修了要件 単位数【30】		4 数学共創基礎Ⅰ～ⅩⅩ含む		4		10
	修得単位【40】		4	4		10	22
博士 後期課程	1 年次	前期 ①・②	共創力強化 インターンシップ (国際/異分野/産学) (4)			卓越講究(8)	リサーチ・ ワークショップ
		後期 ③・④					
	2 年次	前期 ①・②		数学創発モデリング(2)			
		後期 ③・④			卓越論報(2)		
	3 年次	前期 ①・②					
		後期 ③・④					
	博士後期修了要件 単位数【16】		—	6	2		8
修得単位【16】		—	6	2	8	—	